
**松田町まち・ひと・しごと創生
人口ビジョン・総合戦略（案）**

平成28年1月

神奈川県 松田町

I 松田町人口ビジョン

1. 松田町人口ビジョンの策定にあたって

- 1) 位置づけと構成
- 2) 対象期間

2. 松田町の人口現状分析

1) 戦後からの松田町の人口の推移

- (1) 戦後からの松田町の成長・発展期
- (2) 人口の減少傾向への転換期

2) 松田町の人口減少の特性

- (1) 松田町の総人口の減少
- (2) 人口減少を加速させる社会減と自然減の人口動態
- (3) 人口の減少とともに進む産業力の低下
- (4) 地域別の人口減少による都市構造の歪みとコミュニティの弱体化

3. 将来人口の推計と分析

- 1) 国立社会保障・人口問題研究所の将来人口の推計
- 2) 松田町独自の将来人口の推計

4. 人口の変化が地域の将来に与える影響と課題

- 1) 問題・課題の整理

5. 松田町の人口の将来展望

- 1) 目指すべき将来の方向
- 2) 人口将来展望

II 松田町総合戦略

1. 総合戦略の取り組みの視点

2. 総合戦略の施策の方向

- 1) 施策の基本目標
- 2) 取り組みの方策

〔基本目標Ⅰ〕松田町への夢や期待に応える住環境づくり

〔基本目標Ⅱ〕若い世代が安心して、子どもを産み育てられる環境づくり

〔基本目標Ⅲ〕だれもが快適に暮らせる環境づくり

〔基本目標Ⅳ〕松田町の活力につながる産業・交流づくり

3. 総合戦略の推進に向けて

I. 松田町人口ビジョン

1. 松田町人口ビジョンの策定にあたって

1) 位置づけと構成

急速な少子高齢化の進展や人口の減少に歯止めをかけるとともに、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくために、「まち・ひと・しごと創生法」が平成 26 年 11 月に制定された。さらに、平成 26 年 12 月には、わが国の人口の現状と目指すべき将来の姿を分析した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」と、「人口減少と地域経済縮小の克服」と「まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立」を基本的な考え方とした「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が閣議決定されている。

まち・ひと・しごと創生法では、国の示した長期ビジョンや総合戦略に基づき、地方公共団体においては、地方版の人口ビジョン及び総合戦略の策定に努めることとされています。

2) 計画対象期間

本計画の対象期間は、国の長期ビジョンや総合戦略を踏まえ、人口ビジョンは平成 52 (2040) 年までの 25 年間、総合戦略は平成 27 年度から 31 年度までの 5 年間とします。

2. 松田町の人口現状分析

1) 戦後からの松田町の人口の推移

(1) 戦後からの松田町の成長・発展期

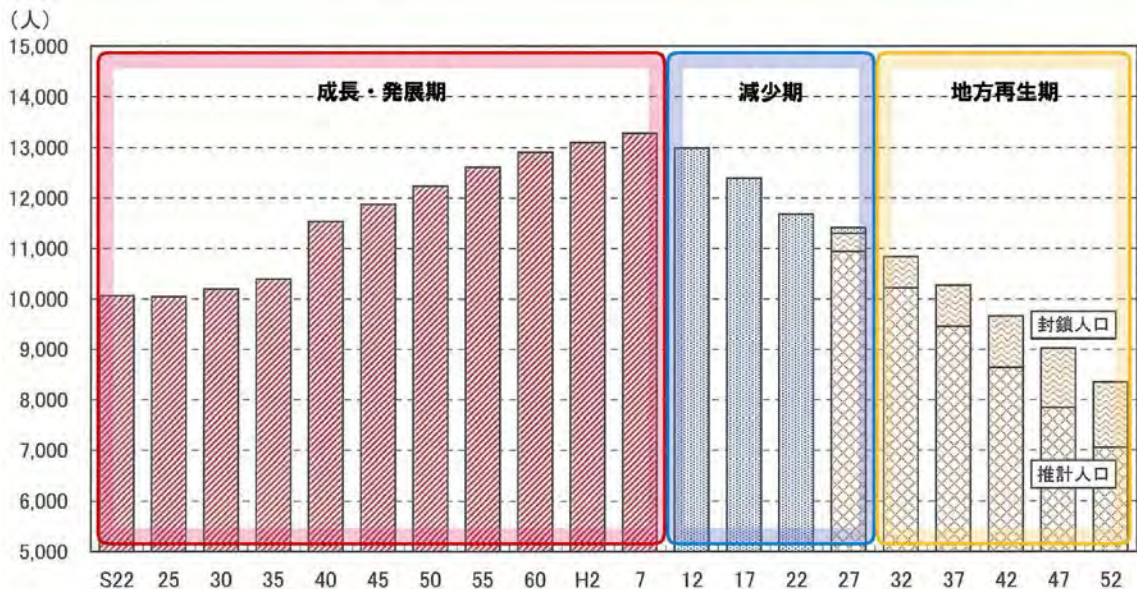
松田町は、その昔は箱根超えの要衝として足柄街道の宿場町として栄え、その後の東海道線（現在の御殿場線）や小田急線の開通に伴い、交通の要衝として足柄上郡の中心的な役割を担ってきていました。また、昭和 30 年には寄村と合併し、現在に至っています。

本町の総人口は、戦後及び寄村との合併以後、高度経済成長気やバブル景気等による景気の上昇とともに地価の高騰化に伴い、東京都心部からの外延化が進むなかで、東京都心部から 100km 圏や県都（横浜市）から 50km 圏、県西地域の中心的な都市となっている小田原市や秦野市等の周辺都市としての住宅需要が高まるとともに、昭和 48 年に自然休養村として寄地区が指定されたことによる環境整備等が進み、町の人口増加につながっていました。

(2) 人口減少傾向への転換期

これまで右肩上がり傾向であった景気も平成 3 年に始まったバブル経済の崩壊とともに景気の低迷が続き、都心部における人口減少の解決に向けた規制緩和策による都心回帰が進められたことで人口減少に転じ、その後の人口減少が著しくなっているとともに少子高齢化が急速に進展しています。

【総人口の推移】



2) 松田町の人口減少の特性

(1) 松田町の総人口の減少

① 国や県に先んじた総人口の減少

町の総人口の推移では、昭和 22 年以降では順調な増加傾向となっていました。平成 7 年の 13,270 人をピークに減少に転じ、平成 22 年の国政調査では 11,676 人、平成 27 年 11 月現在の住民基本台帳で 11,232 人となっています。

また、国全体の総人口は平成 16 年の 12,779 万人をピークに人口減少に転じているが、本町では国全体の推移より約 10 年も早く人口減少が始まっています。

神奈川県では県全体では順調な増加傾向となっていますが、本町をはじめとする県西地域では開成町や大井町を除く市町では減少傾向となっています。

② 急速に少子高齢化が進む人口構成の変化

年齢 3 層区分別人口の推移では、年少人口（15 歳未満人口）で減少傾向が続いている一方で、老年人口（65 歳以上人口）が年々増加傾向となっており、少子高齢化が着実に進行していることが伺われます。

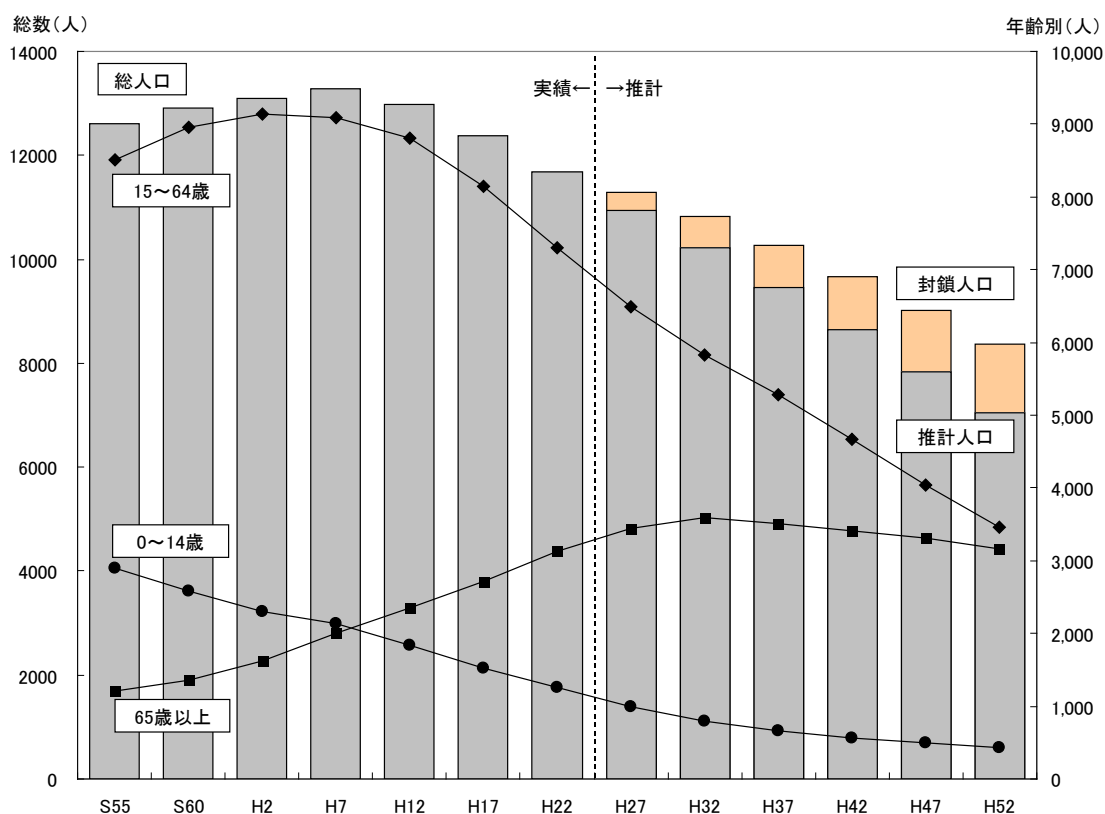
また、生産年齢人口（15～65 歳未満人口）は、町の総人口と同様に平成 7 年をピークに減少に転じています。

③ 将来の人口とその構成

国立社会保障・人口問題研究所による将来推計では、コーホート要因法の封鎖人口で平成 52(2040)年に 8,395 人と平成 22 年より 3,281 人の減少、社会移動を含めたコーホート要因法の推計で 7,055 人と 4,621 人の減少が予測されています。

また、総人口の減少に伴って年齢 3 層区分人口も、年少人口及び生産年齢人口が減少し、老年人口が増加して平成 32 年をピークに横ばい傾向となっています。

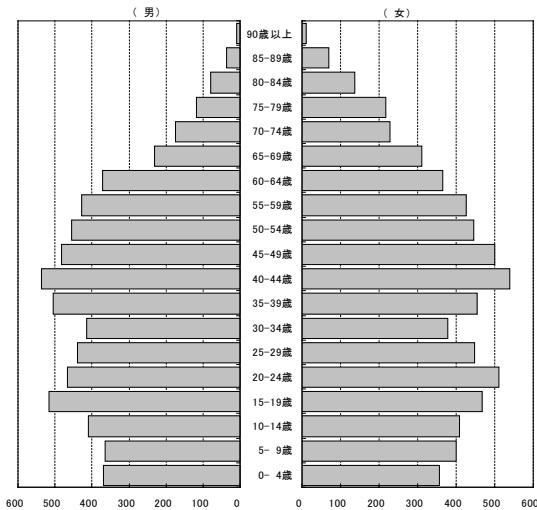
【総人口の推移】



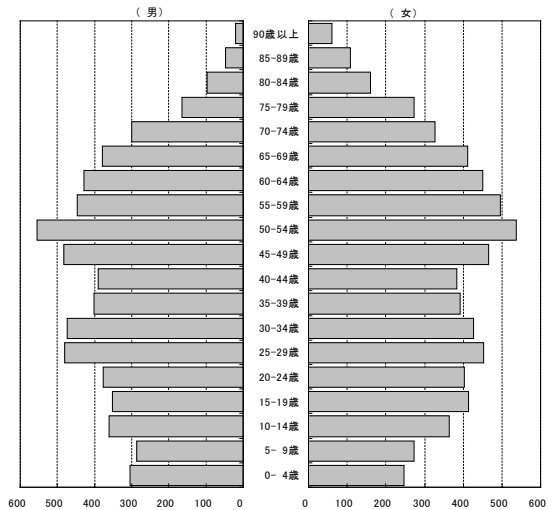
④ 5歳階層別人口（人口ピラミッド）の変化

5歳階層別人口（人口ピラミッド）では、平成2年には年少人口（15歳未満人口）が多く、老年人口（65歳以上人口）が少ない「ピラミッド型」となっていたが、平成22年には年少人口の減少と老年人口の増加により、人口構造も「つぼ型」に変化してきています。

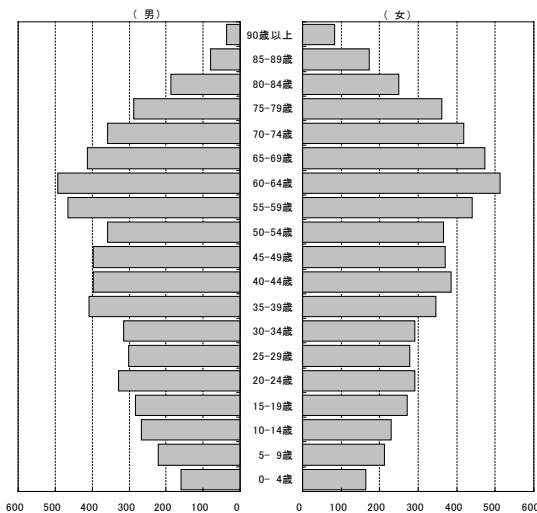
【平成2年】



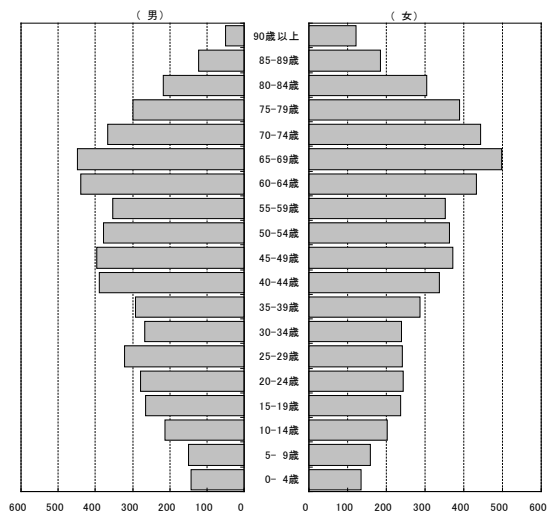
【平成12年】



【平成22年】



【平成27年】



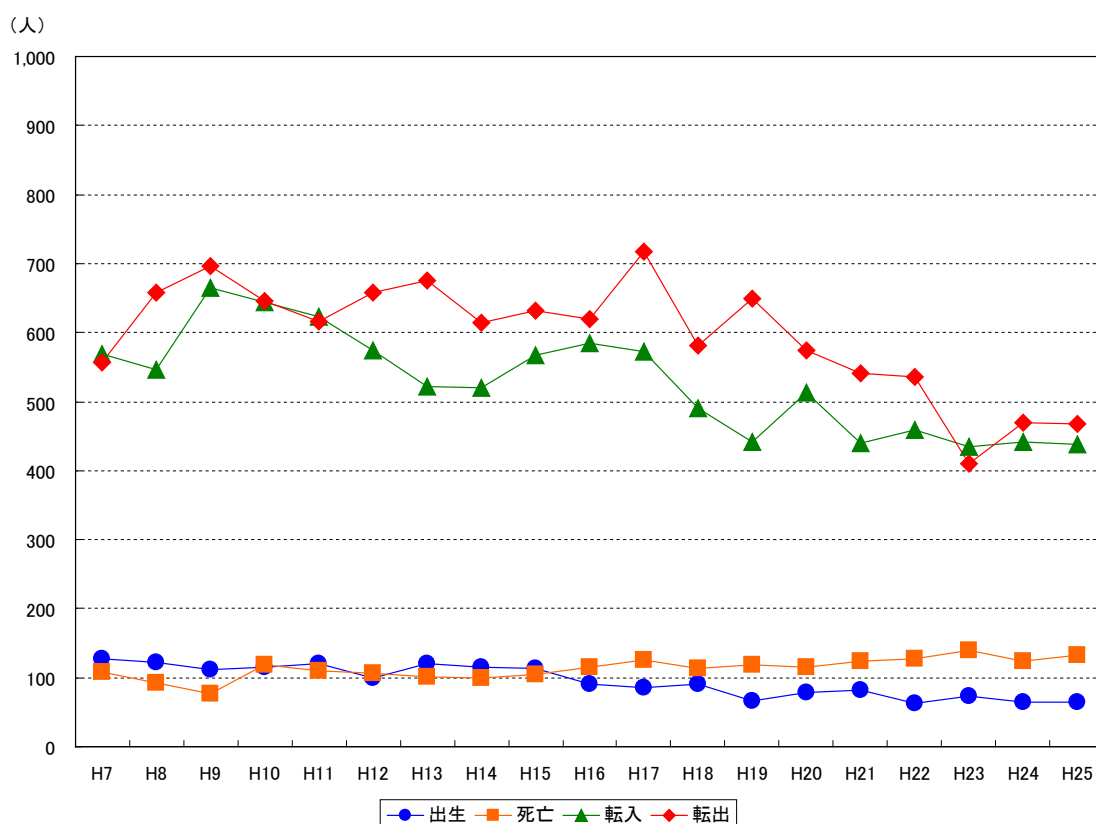
(2) 人口減少を加速させる社会減と自然減の人口動態

① 人口動態—社会減と自然減による人口減少傾向の拡大

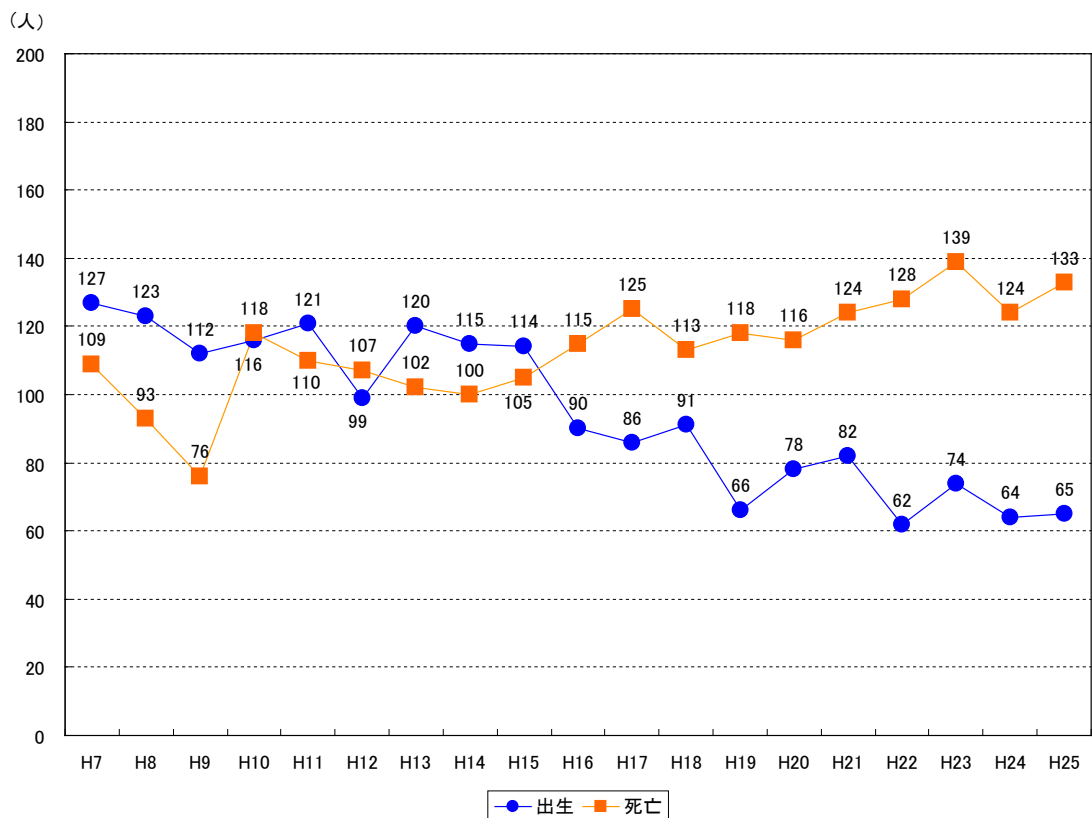
自然動態(出生・死亡)では、老年人口(65歳以上人口)の増加に伴い死亡数が増加傾向となっている一方で、出生率の低下や若年女性(20から30歳代)人口の減少の影響等から出生数が減少しています。また、自然動態では、平成15年以降は死亡数が出生数を上回っており、自然減が続いています。

一方、社会動態(転出・転入)では、転出及び転入ともに年による変動はあるものの、転出者及び転入者ともに減少傾向となっています。また、平成7年や11年、23年では転入者が転出者を上回って社会増となったものの、その他の年は転出者が転入者を上回り、社会減となっています。

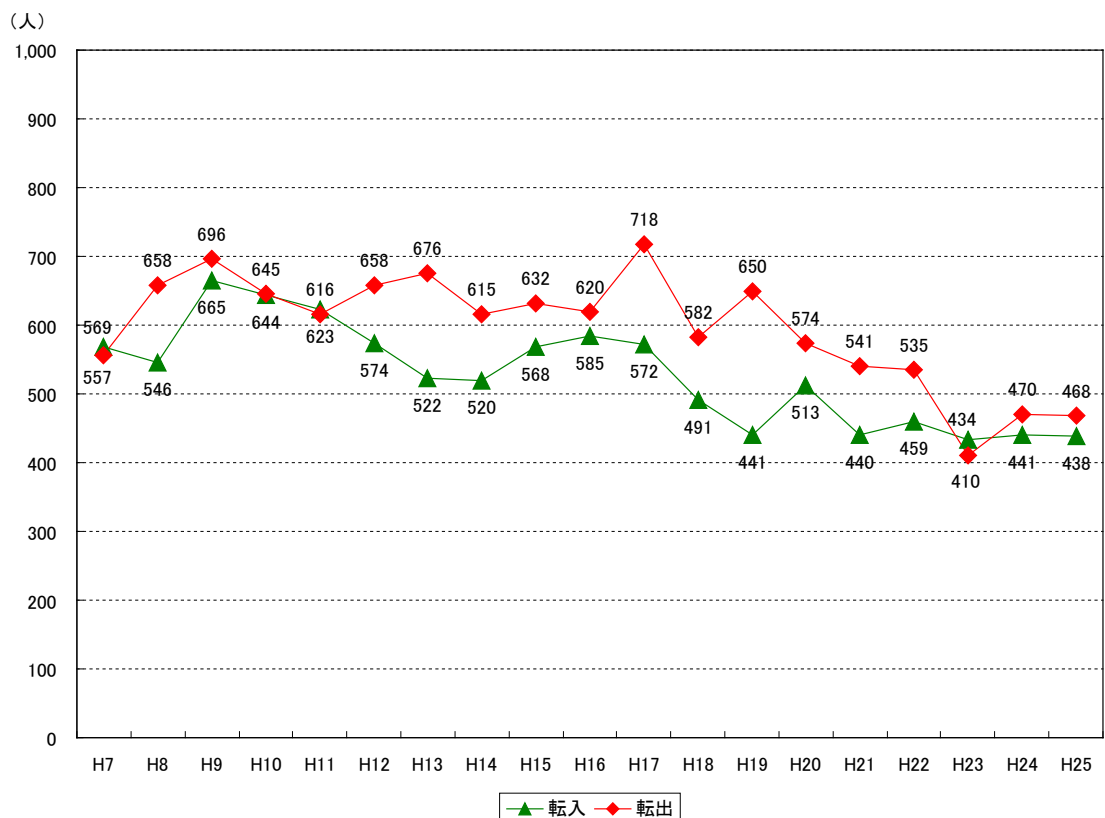
【人口動態】



【自然増減動態（出生・死亡）】



【社会増減動態（転出・転入）】

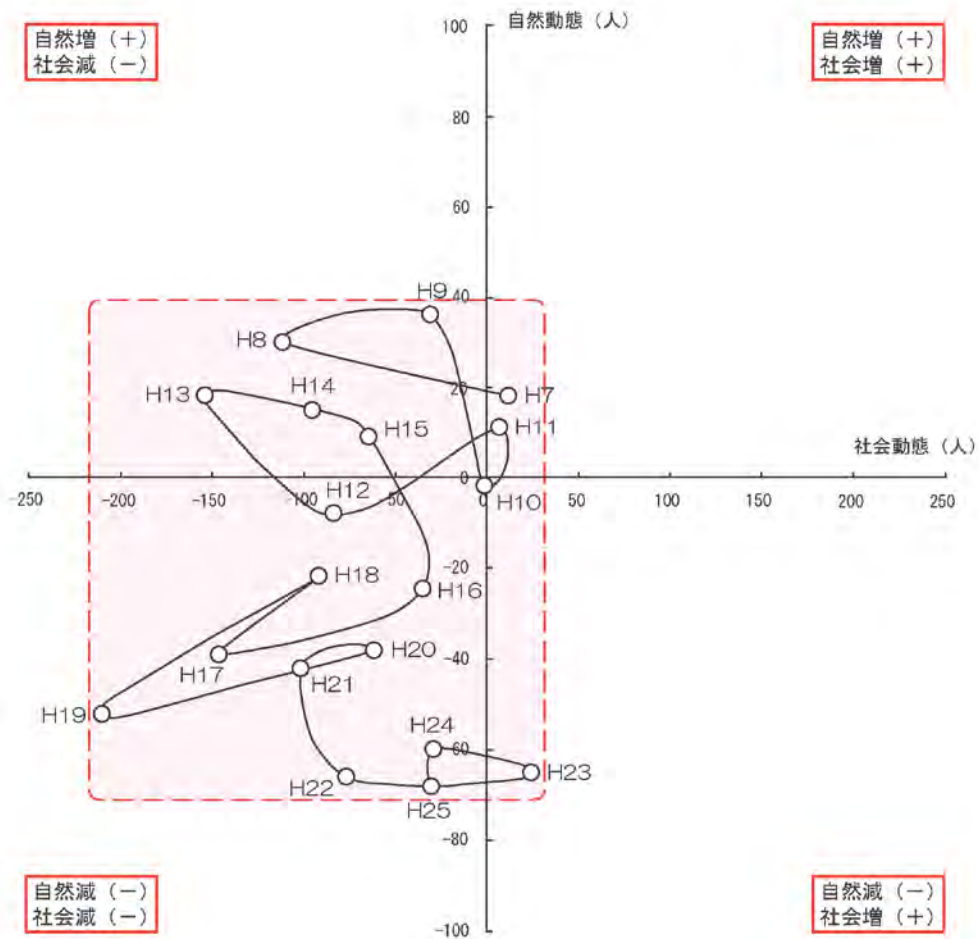


② 総人口に与えてきた自然増減と社会増減の影響

本町の人口に影響を与える自然増減と社会増減の平成7年～25年までの動きでは、平成7～15年では平成7年及び11年は自然増・社会増のエリアに位置したが、その他は自然増・社会減のエリアとなり、社会減に伴う人口減少が続いています。

しかし、平成16年以降では自然減・社会減のエリアに留まっており、自然減を社会減が上回る形で人口減少となっていました。近年では、自然減が社会減を上回る形で人口減少が進んでいます。

【総人口に与えてきた自然増減と社会増減の影響】



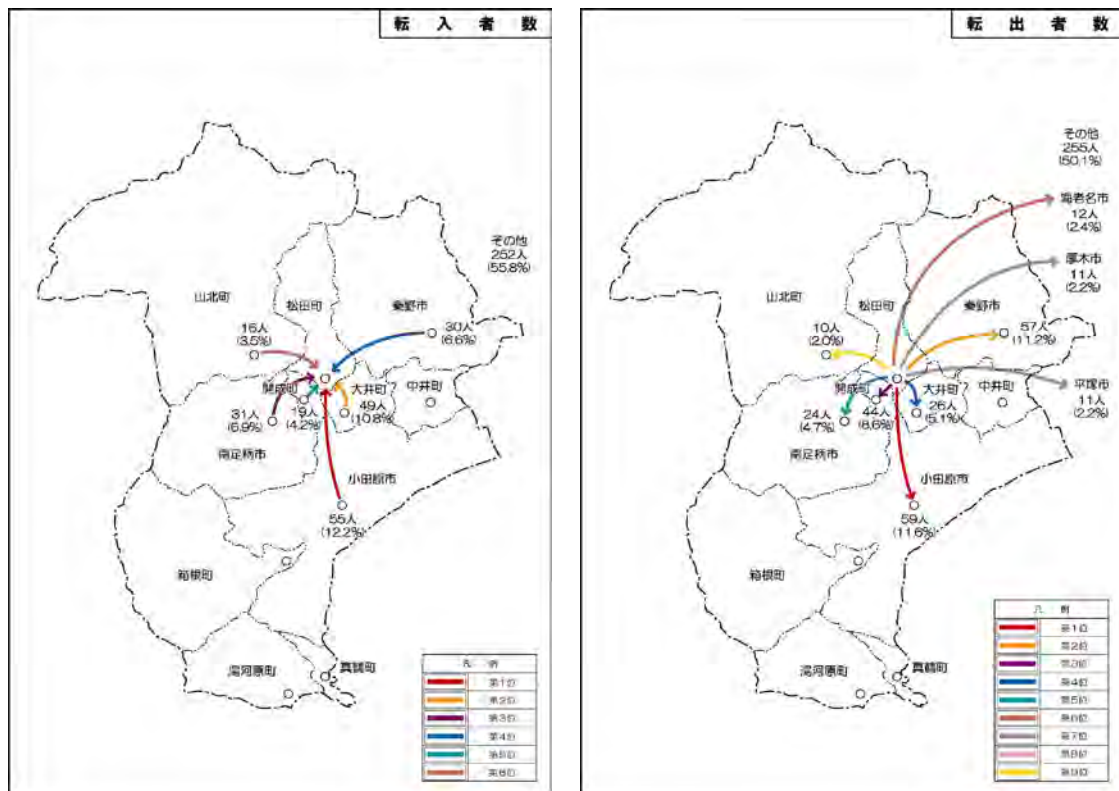
③ 生活圏 — 周辺都市とのつながりと人口動態の関係

近年（平成 24～26 年）の転出・転入の状況を見ると、各年ともに転出者数が転入者数を上回り、転出超過の傾向となっていますが、転入者も多くなっています。

特に、県西地域内での移動が多く、隣接する市町が上位を占めています。特に、転入・転出ともに小田原市や大井町、秦野市、開成町、南足柄市で多くなっています。

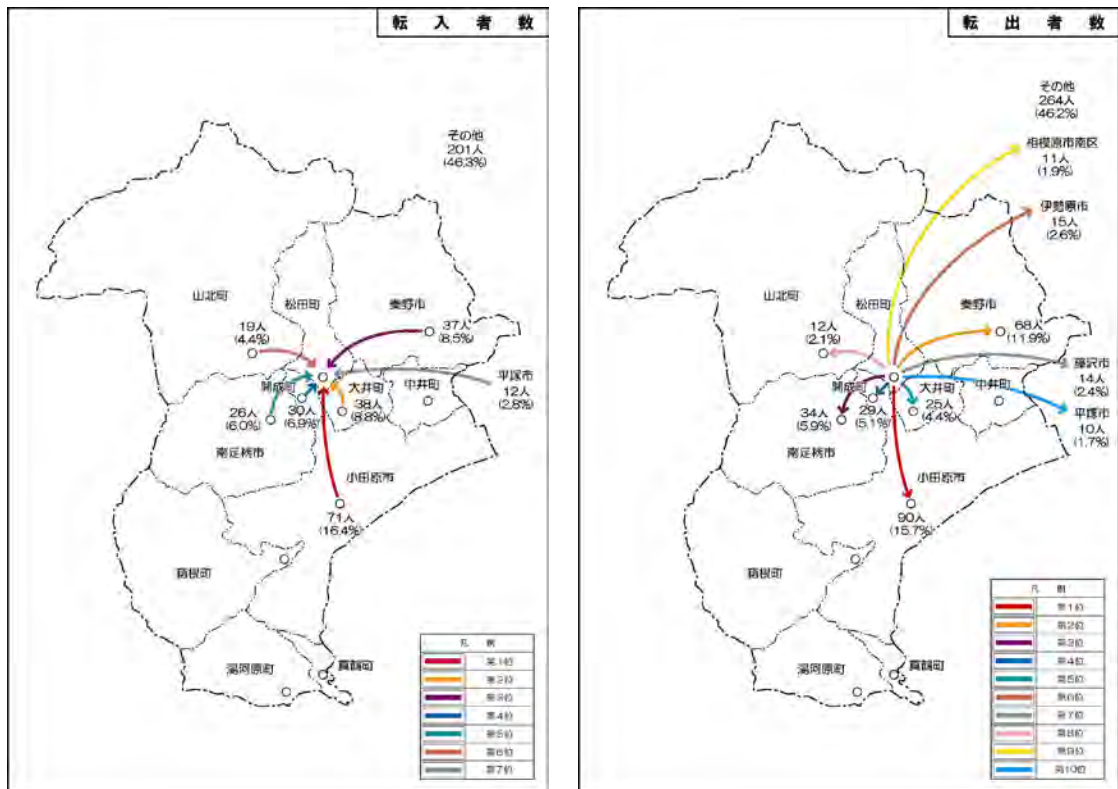
また、平成 24 年で大井町や南足柄市、山北町、平成 25 年で大井町や山北町、平塚市、平成 26 年で小田原市や大井町、開成町においては、本町からの転出者数よりも転入者数が上回っており、新たな居住地として選択されていることが伺われます。

【転出・転入の状況（平成 24 年）】



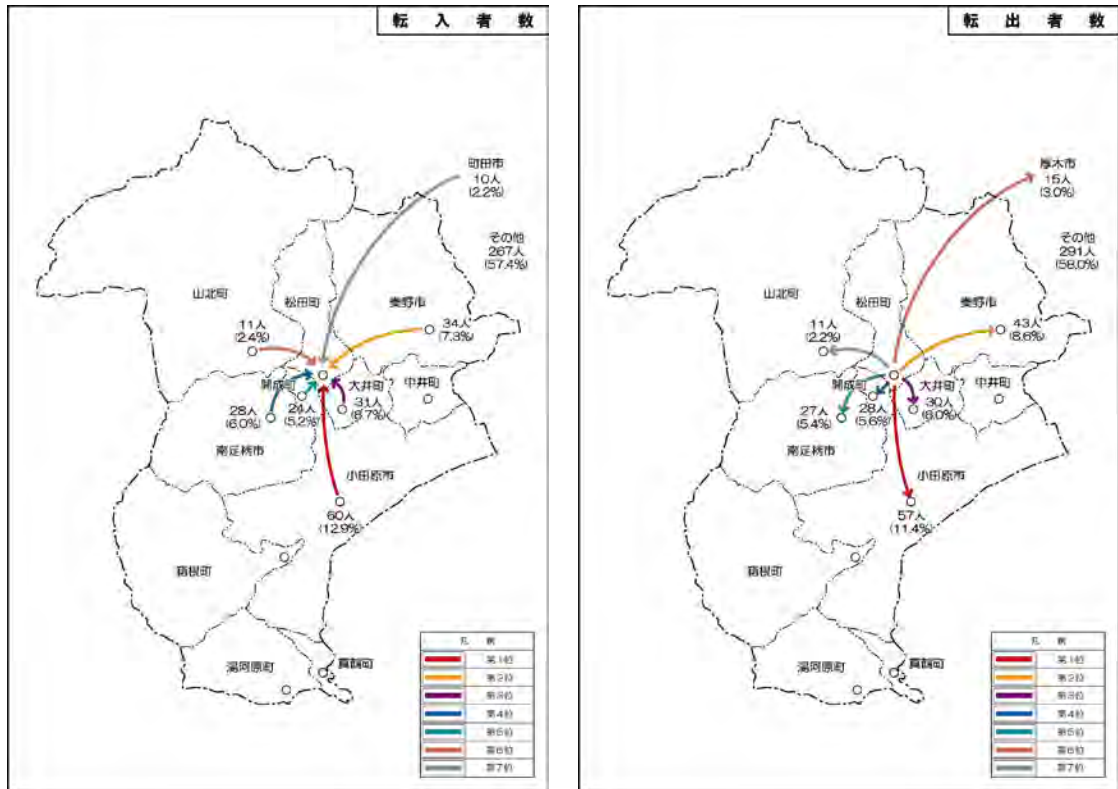
転入状況				転出状況			
	市町村名	人数	割合		市町村名	人数	割合
総数	-	452	100.0%	総数	-	509	100.0%
1位	小田原市	55	12.2%	1位	小田原市	59	11.6%
2位	大井町	49	10.8%	2位	秦野市	57	11.2%
3位	南足柄市	31	6.9%	3位	開成町	44	8.6%
4位	秦野市	30	6.6%	4位	大井町	26	5.1%
5位	開成町	19	4.2%	5位	南足柄市	24	4.7%
6位	山北町	16	3.5%	6位	海老名市	12	2.4%
7位	その他	252	55.8%	7位	厚木市	11	2.2%
				8位	平塚市	11	2.2%
				9位	山北町	10	2.0%
				10位	その他	255	50.1%

【転出・転入の状況（平成25年）】



転入状況				転出状況			
	市町村名	人数	割合		市町村名	人数	割合
総数	-	434	100.0%	総数	-	572	100.0%
1位	小田原市	71	16.4%	1位	小田原市	90	15.7%
2位	大井町	38	8.8%	2位	秦野市	68	11.9%
3位	秦野市	37	8.5%	3位	南足柄市	34	5.9%
4位	開成町	30	6.9%	4位	開成町	29	5.1%
5位	南足柄市	26	6.0%	5位	大井町	25	4.4%
6位	山北町	19	4.4%	6位	伊勢原市	15	2.6%
7位	平塚市	12	2.8%	7位	藤沢市	14	2.4%
8位	その他	201	46.3%	8位	山北町	12	2.1%
				9位	相模原市南区	11	1.9%
				10位	平塚市	10	1.7%
				11位	その他	264	46.2%

【転出・転入の状況（平成26年）】



転入状況				転出状況			
	市町村名	人数	割合		市町村名	人数	割合
総数	—	465	100.0%	総数	—	502	100.0%
1位	小田原市	60	12.9%	1位	小田原市	57	11.4%
2位	秦野市	34	7.3%	2位	秦野市	43	8.6%
3位	大井町	31	6.7%	3位	大井町	30	6.0%
4位	開成町	28	6.0%	4位	南足柄市	28	5.6%
5位	南足柄市	24	5.2%	5位	開成町	27	5.4%
6位	山北町	11	2.4%	6位	厚木市	15	3.0%
7位	町田市	10	2.2%	7位	山北町	11	2.2%
8位	その他	267	57.4%	8位	その他	291	58.0%

④ 若年世代の流出超過と合計特殊出生率の低下

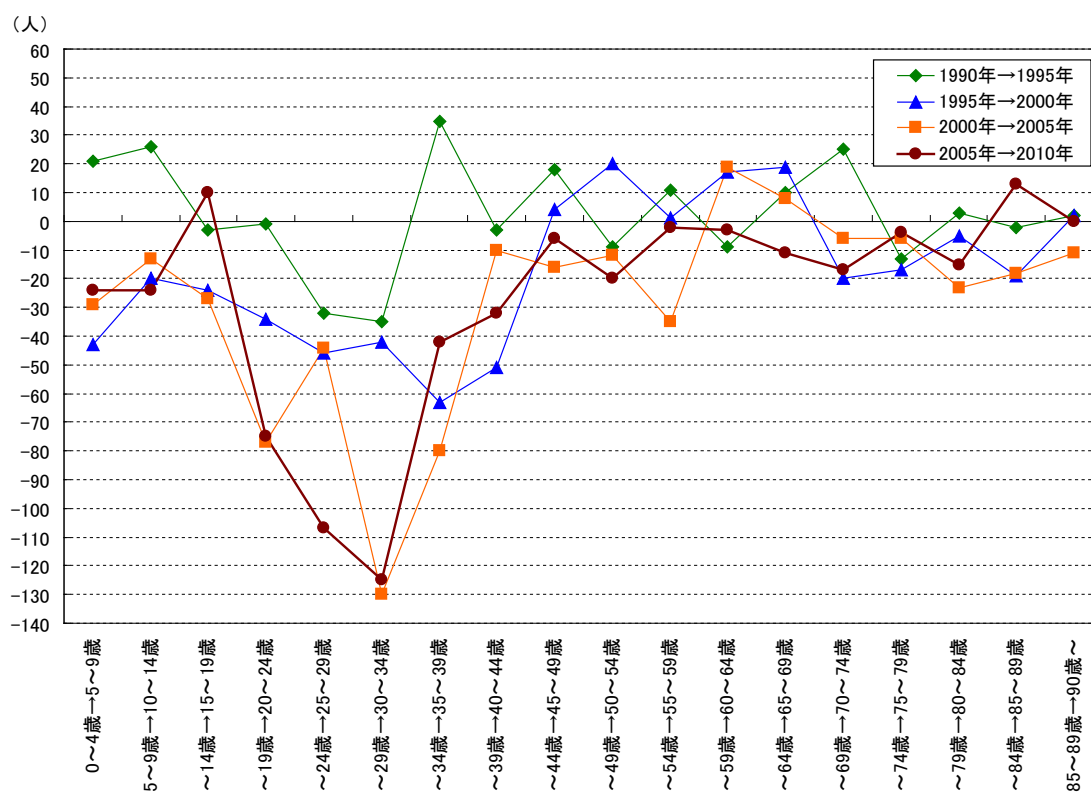
年齢5歳階層別の人口移動では、各5年間ごと（平成2～7年、7～12年、12～17年、17～22年）で15～19歳が20～24歳、20～24歳が25～29歳、25～29歳が30～34歳、55～59歳が60～64歳、60～64歳が65～69歳になるときに人口流出超過となっています。特に、15～19歳が20～24歳、20～24歳が25～29歳、25～29歳が30～34歳の比較的若い世代で大幅な人口流出となっています。

また、男女別では、比較的年齢層の若い20～30歳代での転出数が他の年齢層に比べて多くなっています。特に、女性では15～19歳が20～24歳、20～24歳が25～29歳、25～29歳が30～34歳になるときに大幅な流出超過となっており、大学等への進学や就職、結婚等による転出が大きく影響していると考えられます。

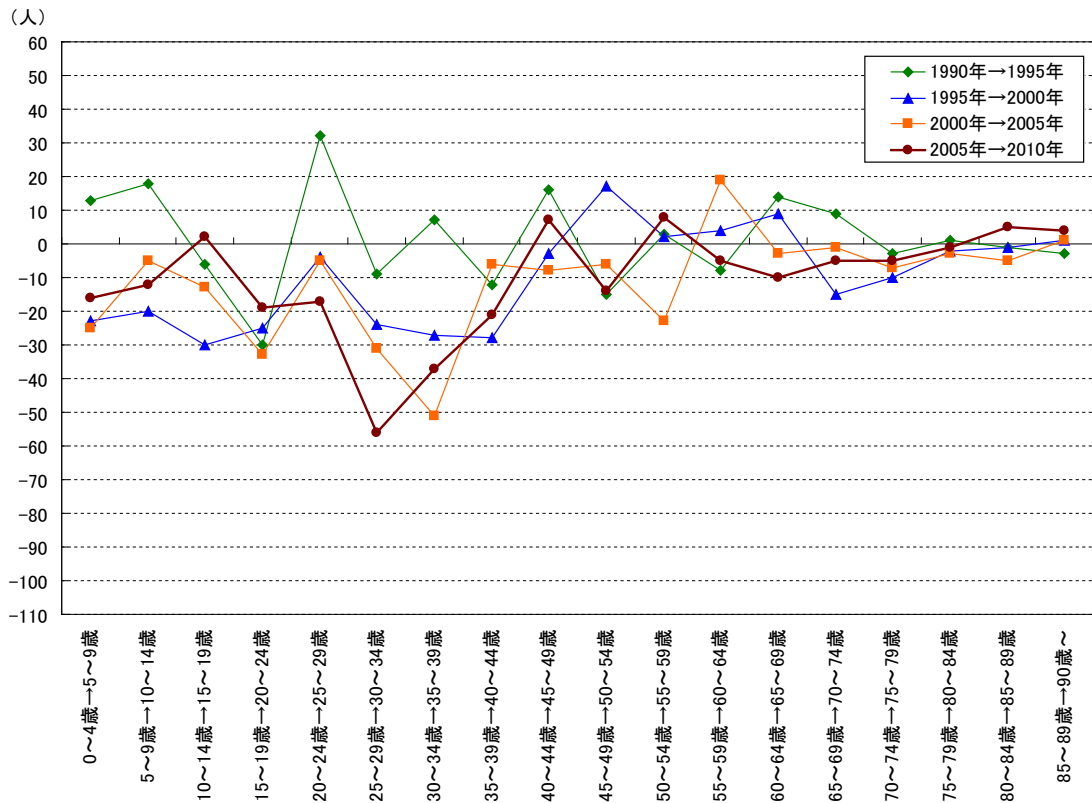
近隣市町の1市4町（南足柄市、中井町、大井町、山北町、開成町）と比較すると、男性では南足柄市で15～19歳が20～24歳、25～29歳が30～34歳での流出超過が著しくなっている一方で、20～24歳が25～29歳で流入が他市町よりも多くなっています。女性では南足柄市で15～19歳が20～24歳、松田町や山北町、中井町で20～24歳が25～29歳、25～29歳が30～34歳で流出が多くなっています。

また、開成町については、大部分の年齢層で転入超過となっており、特に20～24歳が25～29歳から35～39歳が40～44歳で土地区画整理事業等による住宅供給に伴い、他市町よりも転入超過傾向となっていることが考えられます。

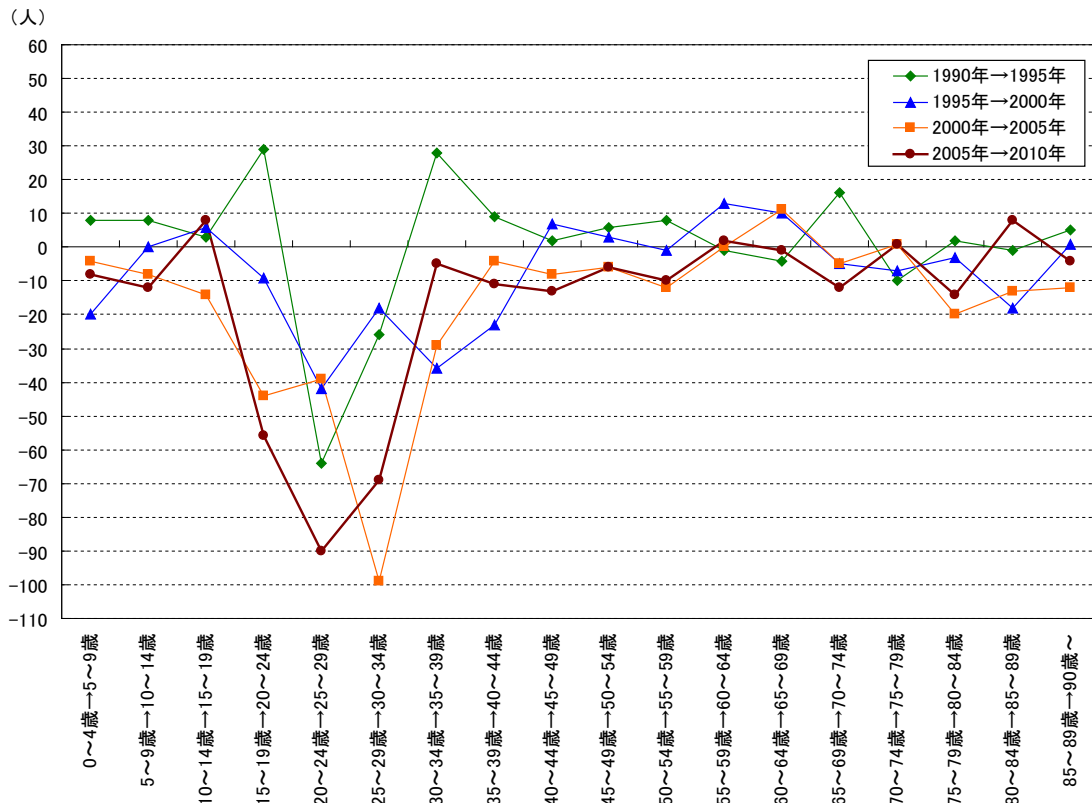
【年齢別人口動態】



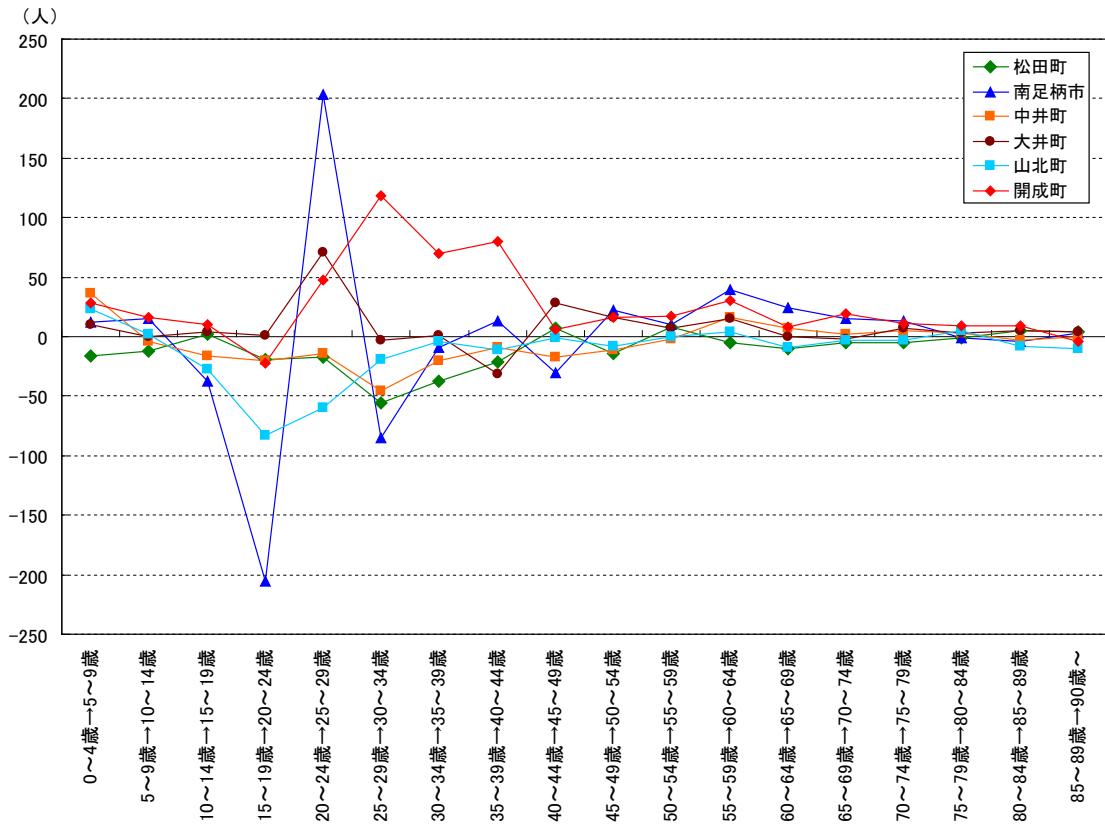
【年齢別人口動態（男性）】



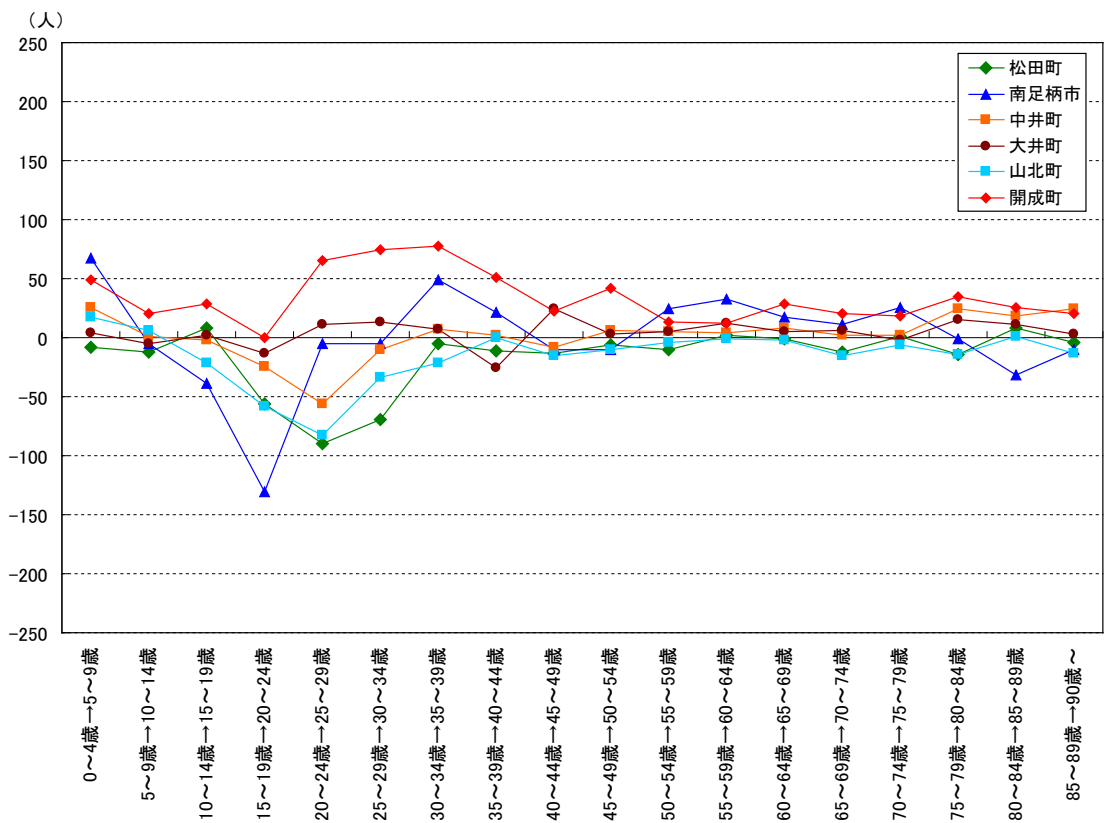
【年齢別人口動態（女性）】



【1市5町の年齢別人口動態（男性）】



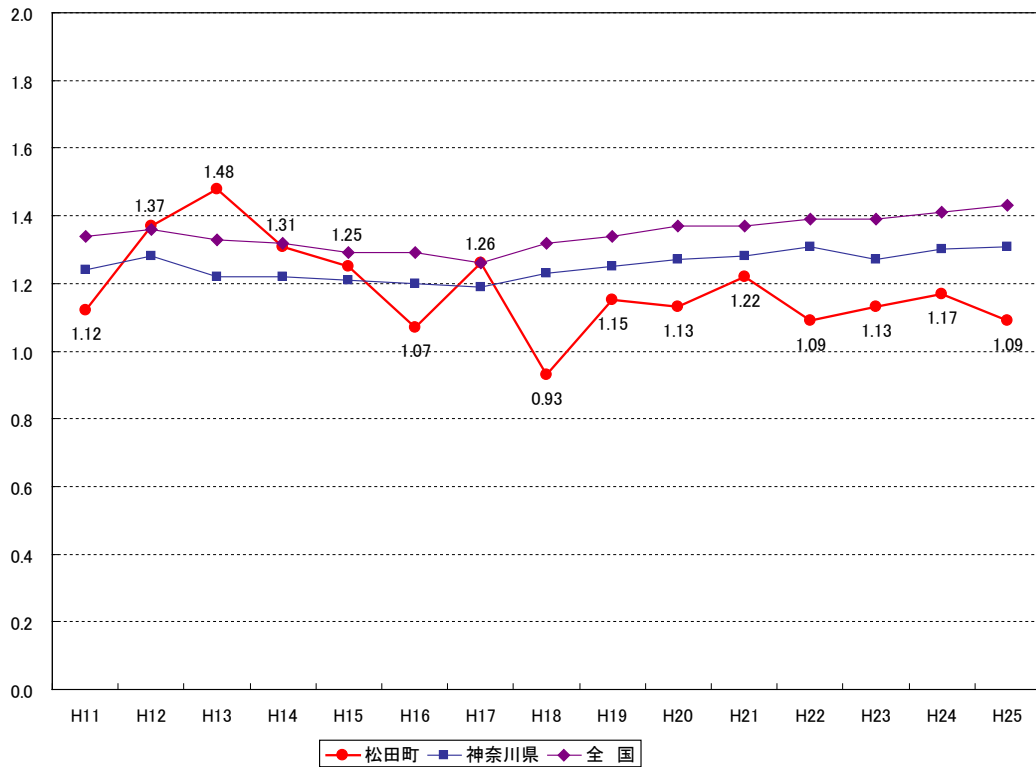
【1市5町の年齢別人口動態（女性）】



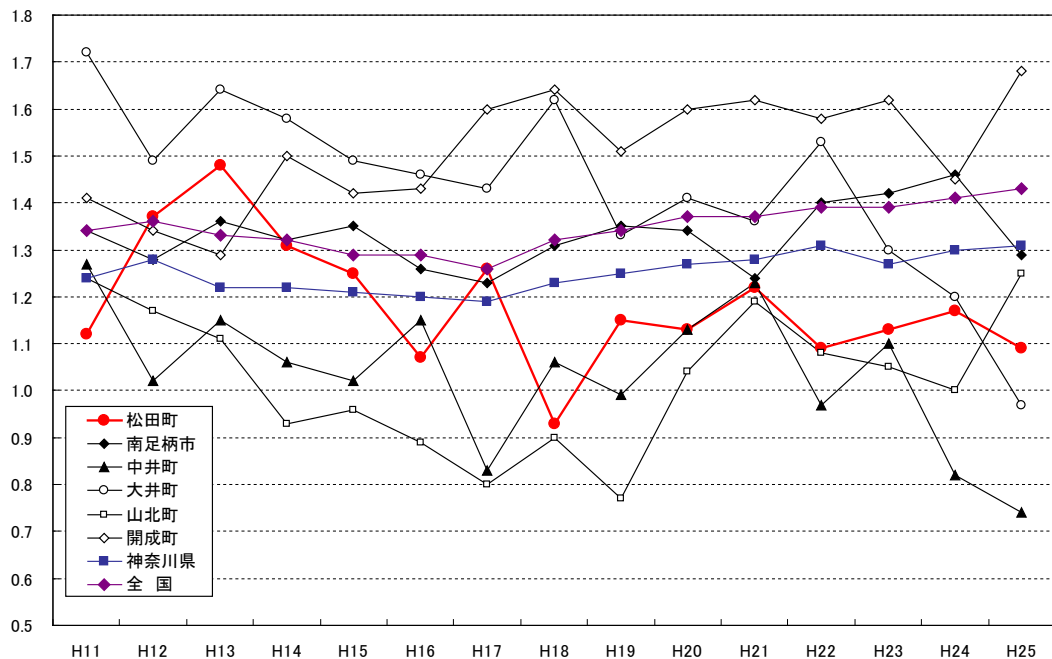
合計特殊出生率は、年による変動はあるものの、平成 18 年の 0.93 までの落ち込みより回復し、平成 22 年以降はほぼ横ばいの状況となっていたが、平成 25 年には 1.09 となっています。また、平成 18 年以降は全国・神奈川県 averages を下回っているほか、近隣の 1 市 4 町においても中井町や大井町に次いで低い値となっています。

また、将来的には本町の人口規模の維持に向けて、平成 72 年（2060 年）には合計特殊出生率 2.07 を目指し、各種施策・事業等の取り組みの検討を進めています。

【合計特殊出生率】

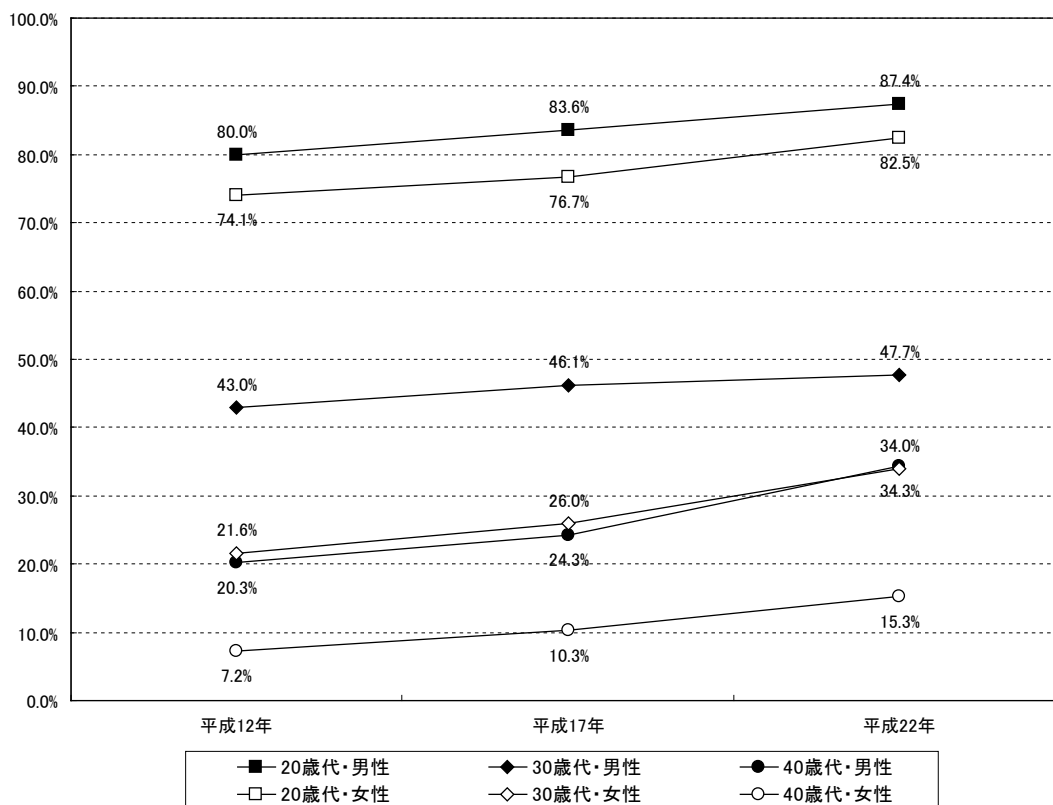


【1市5町の合計特殊出生率】



本町における未婚率では、女性よりも男性の未婚率が高くなっています。また、男性及び女性ともに、年々上昇傾向となっていますが、男性では40歳代、女性では30歳代で、近年、急激に高くなっています。

【未婚率の推移】



(3) 人口の減少とともに進む産業力の低下

① 町の産業構造と各産業の推移

町の就業者総数は、総人口の減少に伴って、平成7年をピークに常住地（夜間人口）及び従業地（昼間人口）ともに減少傾向となっています。その一方で、就従比率は平均して8割を占めており、これまでと同様に暮らしの場（生活の場）としての役割を担っています。

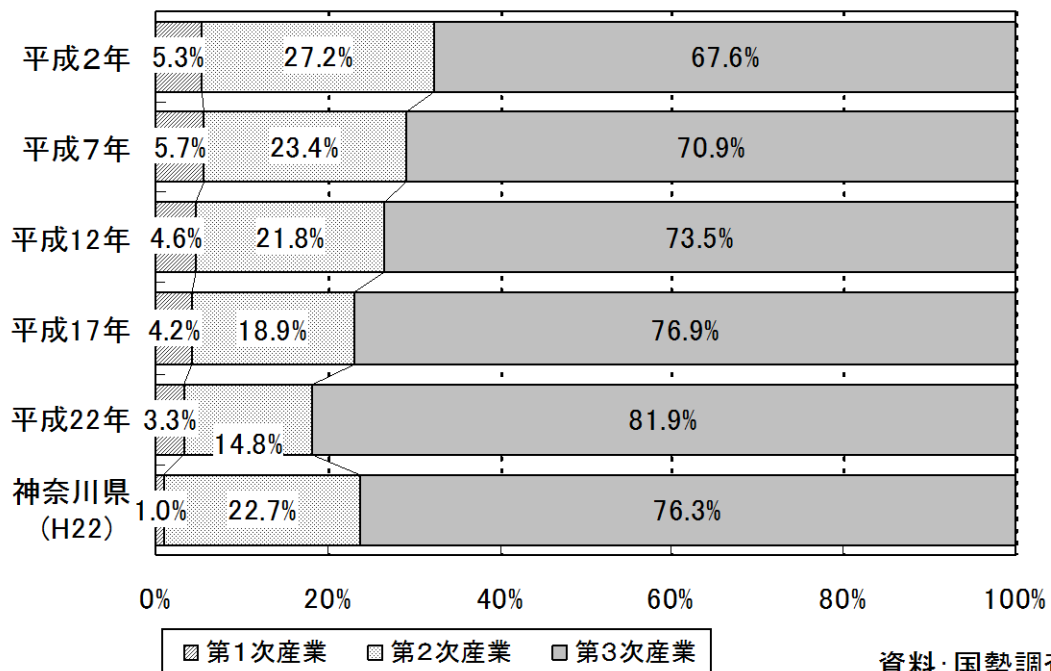
産業別の就業者数の推移をみると、第1次・第2次・第3次産業のいずれの産業ともに就業者数は減少傾向となっており、特に、第1次及び第2次産業における就業者数の減少が著しく、第3次産業の占める割合が年々高くなってきています。

【産業別就業者数の推移】

	常住地ベース				従業地ベース				従業地/常住地の比率
	第1次	第2次	第3次	合計	第1次	第2次	第3次	合計	
平成2年	297 4.4%	2,366 35.0%	4,090 60.6%	6,753 100.0%	292 5.3%	1,510 27.2%	3,755 67.6%	5,557 100.0%	82.3%
平成7年	326 4.7%	2,290 32.9%	4,344 62.4%	6,960 100.0%	324 5.7%	1,341 23.4%	4,057 70.9%	5,722 100.0%	82.2%
平成12年	244 3.7%	2,041 30.5%	4,397 65.8%	6,682 100.0%	246 4.6%	1,162 21.8%	3,912 73.5%	5,320 100.0%	79.6%
平成17年	211 3.4%	1,777 28.4%	4,278 68.3%	6,266 100.0%	208 4.2%	948 18.9%	3,847 76.9%	5,003 100.0%	79.8%
平成22年	162 2.8%	1,410 24.7%	4,137 72.5%	5,709 100.0%	156 3.3%	695 14.8%	3,841 81.9%	4,692 100.0%	82.2%
平成22年 神奈川県	35,044 0.8%	892,678 21.5%	3,219,220 77.6%	4,146,942 100.0%	34,847 1.0%	778,496 22.7%	2,622,939 76.3%	3,436,282 100.0%	82.9%

資料：国勢調査

【産業別就業人口構成比の推移】



資料：国勢調査

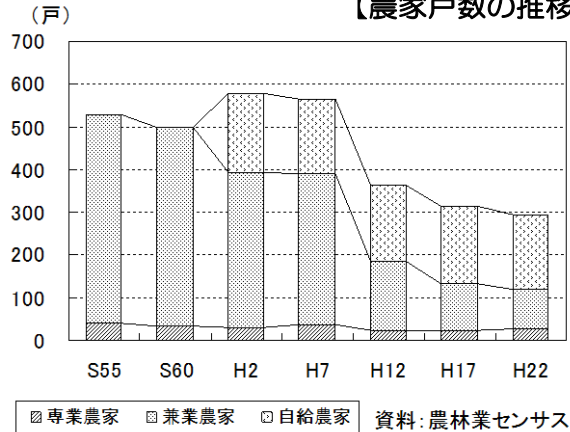
② 農業の動向

農家戸数の推移をみると、専業及び兼業農家で減少傾向となっており、兼業農家が著しく減少しています。

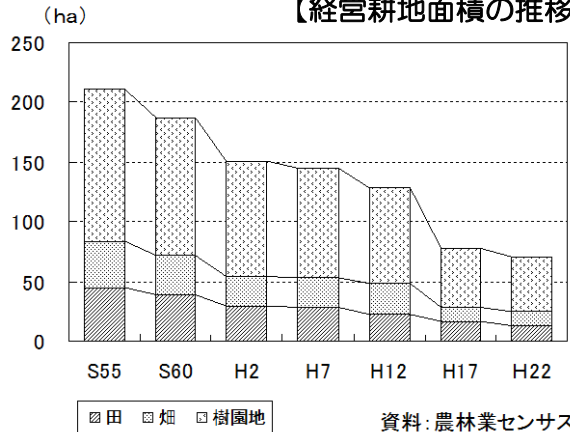
その一方で、自給農家数はほぼ横ばいとなっているものの、農家数全体に占める割合が高くなってきており、平成22年で約6割となっています。

経営耕地面積も年々、減少傾向が続いており、平成22年では71haとなっています。特に果樹園の減少傾向が著しくなっており、農業従事者の高齢化や後継者不足等が大きな要因となっていると考えられます。

【農家戸数の推移】



【経営耕地面積の推移】

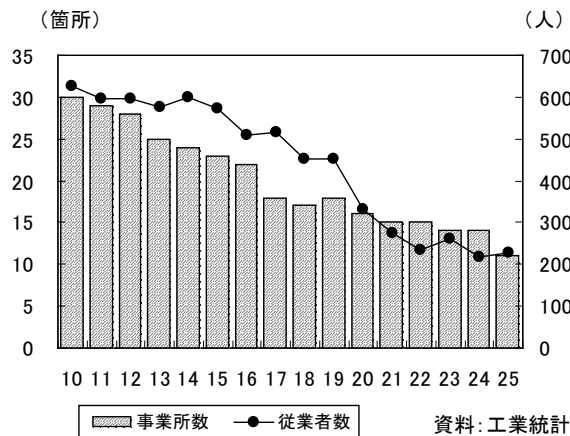


③ 商工業の動向

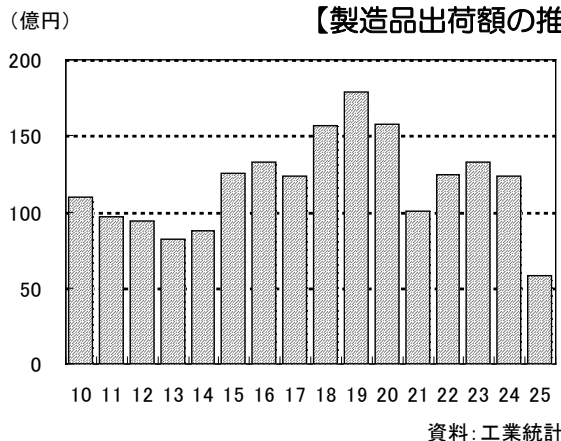
工業の動向では、事業所数及び従業者数ともに、年々減少傾向となっており、平成25年では事業所数が11箇所、従業者数が227人となっています。

また、製造品出荷額においては、平成13年を境に増加傾向が続いていたものの、平成19年をピークに減少に転じ、平成25年では58.3億円となっています。

【事業所・従業者数の推移】



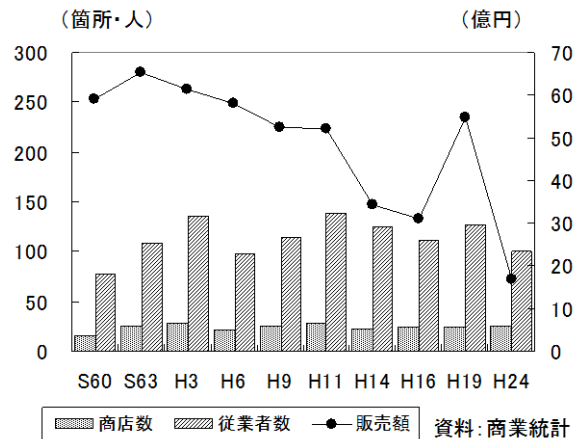
【製造品出荷額の推移】



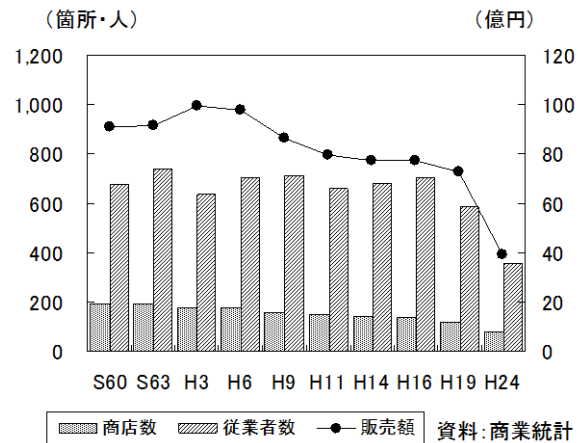
商業の動向では、卸売業では商店数は増加傾向となっているものの、従業者数及び販売額では減少傾向となっています。

また、小売業では商店数及び従業者数、販売額ともに減少傾向となっています。

【卸売業の推移】



【小売業の推移】



④ 観光の動向

観光の動向では、日帰り客は平成 19 年、宿泊者数は平成 15 年をピークに減少傾向となっており、平成 24 年で日帰り客が約 60 万人、宿泊者数が約 7 千人となっています。

【観光の推移】

	松田		寄		町全体	
	日帰り客	宿泊者数	日帰り客	宿泊者数	日帰り客	宿泊者数
平成11年	188,535	0	185,593	22,187	374,128	22,187
平成12年	143,570	0	189,708	21,214	333,278	21,214
平成13年	127,091	0	160,292	18,248	287,383	18,248
平成14年	279,161	0	244,279	21,842	523,440	21,842
平成15年	268,712	624	235,134	21,555	503,846	22,179
平成16年	349,378	505	188,571	19,574	537,949	20,079
平成17年	365,743	5,764	140,460	15,233	506,203	20,997
平成18年	543,088	1,872	276,485	18,822	819,573	20,694
平成19年	715,079	1,744	149,029	15,037	864,108	16,781
平成20年	549,182	1,503	249,669	14,747	798,851	16,250
平成21年	564,169	657	203,860	14,470	768,029	15,127
平成22年	518,119	657	132,960	14,230	651,079	14,887
平成23年	492,483	657	129,159	14,213	621,642	14,870
平成24年	455,030	447	127,766	6,801	582,796	7,248

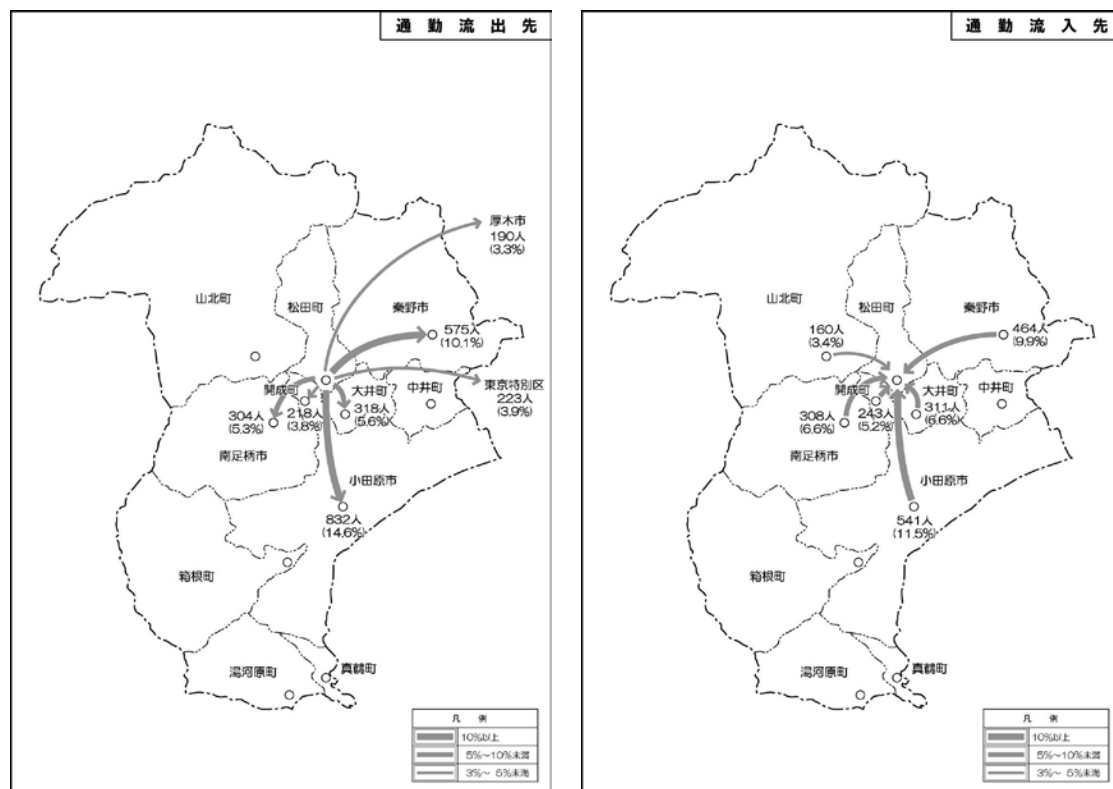
資料：松田町データ集

⑤ 他都市に依存した就業構造

本町からの通勤流出先をみると、本町の就業者全体に占める他市町村で従業する就業者が7割を占めていることから他都市に依存する就業構造となっています。

特に、主な流出先では、小田原市をはじめとして、秦野市や大井町、南足柄市、東京特別区、開成町、厚木市等となっている一方で、流入先では小田原市や秦野市、大井町、南足柄市、開成町、山北町等の隣接・近接する市町となっており、昼間の就業者全体の6割を占めています。

【通勤流出入先（平成22年）】



(人数:人 割合:%)

流出状況			流入状況		
	人数	割合		人数	割合
総数	5,709	100.0%	総数	4,692	100.0%
自市で従業	1,635	28.6%	自市で従業	1,635	34.8%
他市町村で従業	4,060	71.1%	他市町村に常住	2,818	60.1%
県内	3,441	60.3%	県内	2,666	56.8%
小田原市	832	14.6%	小田原市	541	11.5%
秦野市	575	10.1%	秦野市	464	9.9%
大井町	318	5.6%	大井町	311	6.6%
南足柄市	304	5.3%	南足柄市	308	6.6%
開成町	218	3.8%	開成町	243	5.2%
厚木市	190	3.3%	山北町	160	3.4%
県外	394	6.9%	県外	152	3.2%
東京特別区部	223	3.9%			

資料:国勢調査

(4) 各地域の人口減少による都市構造の歪みとコミュニティの弱体化

① 地域の人口と少子高齢化の状況

地域別人口では、松田地区は平成2年の10,823人、寄地区は平成12年の2,807人をピークに人口減少に転じており、平成27年には松田地区で9,294人（1,529人減）、寄地区で2,122人（685人減）となっています。

年齢3層区分人口では、松田地区及び寄地区ともに地区人口の減少に伴い、少子高齢化が進行しています。

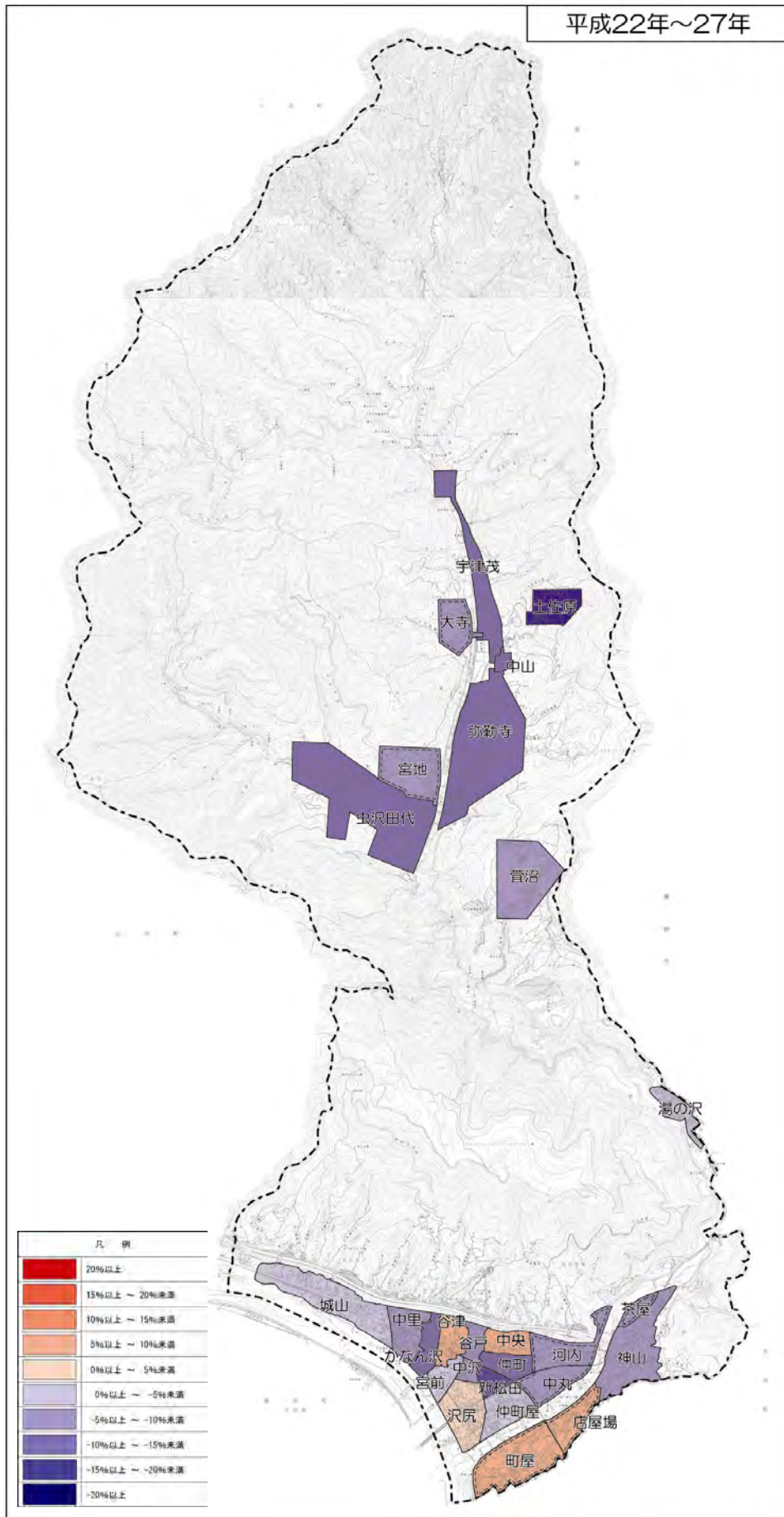
【地域別人口・世帯数の推移】

旧行政区	自治会	平成2年				平成7年				平成12年				平成17年				平成22年				平成27年			
		実数	実数	増減数	増減率	実数	増減数	増減率	実数	増減数	増減率	実数	増減数	増減率	実数	増減数	増減率	実数	増減数	増減率	実数	増減数	増減率		
1区	町屋・店屋場	1,532	1,583	51	3.3%	1,779	196	12.4%	1,832	53	3.0%	1,881	49	2.7%	2,039	158	8.4%								
2・3区	神山	1,029	1,031	2	0.2%	1,074	43	4.2%	1,012	-62	-5.8%	943	-69	-6.8%	870	-73	-7.7%								
4区東西	茶屋・河内・中丸	1,849	1,831	-18	-1.0%	1,641	-190	-10.4%	1,469	-172	-10.5%	1,353	-116	-7.9%	1,242	-111	-8.2%								
5区	中央	341	306	-35	-10.3%	278	-28	-9.2%	250	-28	-10.1%	218	-32	-12.8%	230	12	5.5%								
6・7区	仲町	568	543	-25	-4.4%	472	-71	-13.1%	415	-57	-12.1%	377	-38	-9.2%	329	-48	-12.7%								
8区	新松田	269	234	-35	-13.0%	261	27	11.5%	225	-36	-13.8%	218	-7	-3.1%	181	-37	-17.0%								
9区	谷戸	447	416	-31	-6.9%	383	-33	-7.9%	360	-23	-6.0%	328	-32	-8.9%	310	-18	-5.5%								
10区	中沢	259	229	-30	-11.6%	211	-18	-7.9%	172	-39	-18.5%	164	-8	-4.7%	151	-13	-7.9%								
11区	沢尻	851	884	33	3.9%	911	27	3.1%	888	-23	-2.5%	815	-73	-8.2%	825	10	1.2%								
12区	谷津	350	345	-5	-1.4%	350	5	1.4%	358	8	2.3%	372	14	3.9%	400	28	7.5%								
13区	宮前	330	327	-3	-0.9%	292	-35	-10.7%	323	31	10.6%	261	-62	-19.2%	258	-3	-1.1%								
14区東	かなん沢	470	466	-4	-0.9%	499	33	7.1%	517	18	3.6%	492	-25	-4.8%	433	-59	-12.0%								
14区西	中里	680	698	18	2.6%	664	-34	-4.9%	601	-63	-9.5%	540	-61	-10.1%	495	-45	-8.3%								
15区	城山	877	878	1	0.1%	846	-32	-3.6%	901	55	6.5%	943	42	4.7%	902	-41	-4.3%								
17区	仲町屋	971	877	-94	-9.7%	761	-116	-13.2%	715	-46	-6.0%	649	-66	-9.2%	629	-20	-3.1%								
	松田地区	10,823	10,648	-175	-1.6%	10,422	-226	-2.1%	10,038	-384	-3.7%	9,554	-484	-4.8%	9,294	-260	-2.7%								
18区	萱沼	208	211	3	1.4%	216	5	2.4%	183	-33	-15.3%	147	-36	-19.7%	136	-11	-7.5%								
19区上下	弥勒寺	684	937	253	37.0%	964	27	2.9%	924	-40	-4.1%	858	-66	-7.1%	732	-126	-14.7%								
20区	中山	69	51	-18	-26.1%	43	-8	-15.7%	40	-3	-7.0%	35	-5	-12.5%	31	-4	-11.4%								
21区	土佐原	82	93	11	13.4%	101	8	8.6%	91	-10	-9.9%	73	-18	-19.8%	58	-15	-20.5%								
22区	宇津茂	248	316	68	27.4%	323	7	2.2%	306	-17	-5.3%	269	-37	-12.1%	241	-28	-10.4%								
23・24区	大寺宮地	277	292	15	5.4%	296	4	1.4%	277	-19	-6.4%	251	-26	-9.4%	235	-16	-6.4%								
25・26区	虫沢田代	409	478	69	16.9%	481	3	0.6%	438	-43	-8.9%	401	-37	-8.4%	352	-49	-12.2%								
27区	湯の沢	356	365	9	2.5%	383	18	4.9%	385	2	0.5%	347	-38	-9.9%	337	-10	-2.9%								
	寄地区	2,333	2,743	410	17.6%	2,807	64	2.3%	2,644	-163	-5.8%	2,381	-263	-9.9%	2,122	-259	-10.9%								
合計	町全体	13,156	13,391	235	1.8%	13,229	-162	-1.2%	12,682	-547	-4.1%	11,935	-747	-5.9%	11,416	-519	-4.3%								

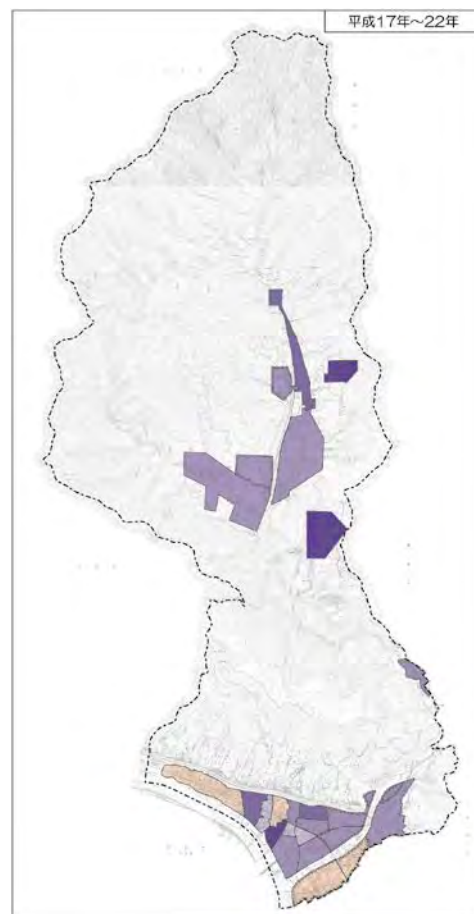
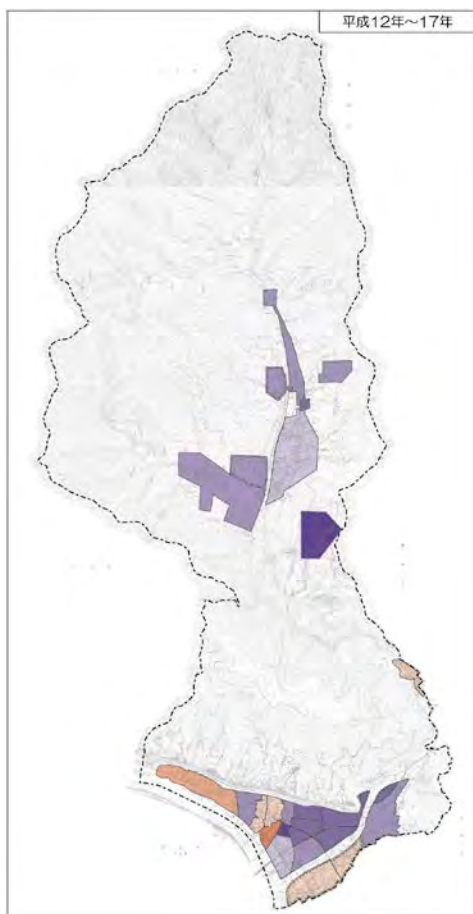
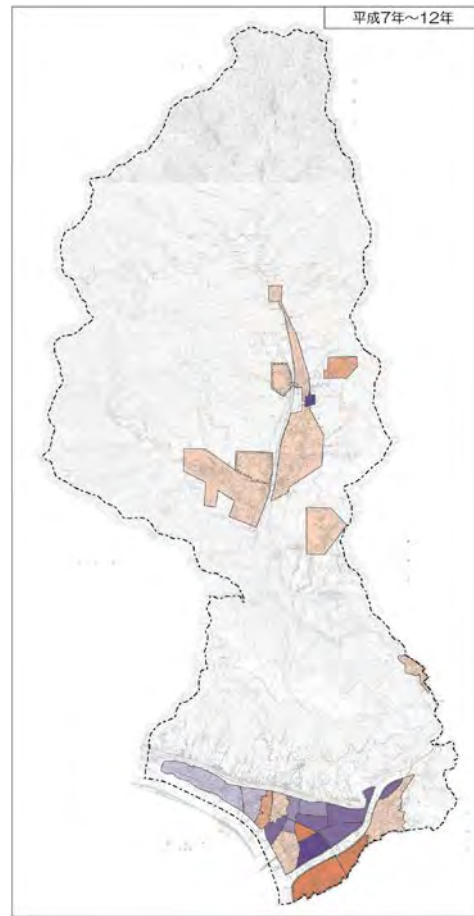
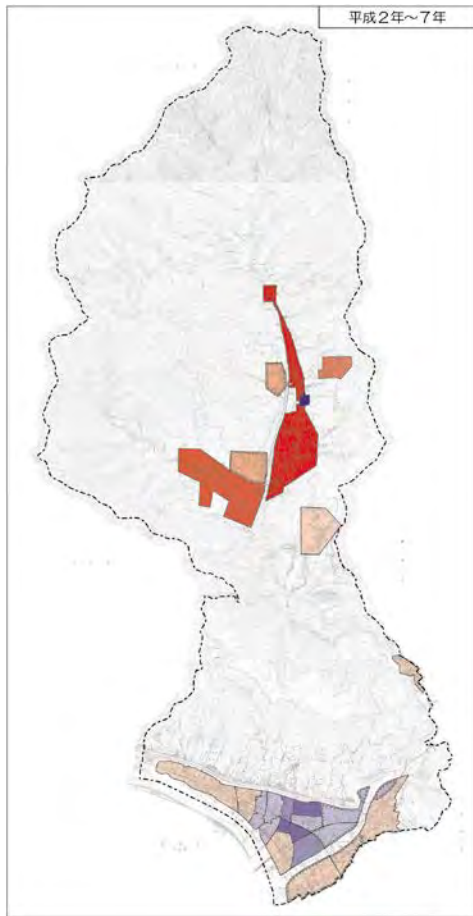
旧行政区	自治会	平成2年				平成7年				平成12年				平成17年				平成22年				平成27年			
		実数	実数	増減数	増減率	実数	増減数	増減率	実数	増減数	増減率	実数	増減数	増減率	実数	増減数	増減率	実数	増減数	増減率	実数	増減数	増減率		
1区	町屋・店屋場	474	532	58	12.2%	620	88	16.5%	678	58	9.4%	738	60	8.8%	828	90	12.2%								
2・3区	神山	308	310	2	0.6%	348	38	12.3%	349	1	0.3%	359	10	2.9%	364	5	1.4%								
4区東西	茶屋・河内・中丸	622	677	55	8.8%	650	-27	-4.0%	621	-29	-4.5%	586	-35	-5.6%	561	-25	-4.3%								
5区	中央	100	102	2	2.0%	95	-7	-6.9%	94	-1	-1.1%	86	-8	-8.5%	99	13	15.1%								
6・7区	仲町	173	191	18	10.4%	179	-12	-6.3%	168	-11	-6.1%	163	-5	-3.0%	149	-14	-8.6%								
8区	新松田	76	77	1	1.3%	105	28	36.4%	106	1	1.0%	116	10	9.4%	102	-14	-12.1%								
9区	谷戸	116	120	4	3.4%	118	-2	-1.7%	119	1	0.8%	122	3	2.5%	122	0	0.0%								
10区	中沢	68	69	1	1.5%	74	5	7.2%	65	-9	-12.2%	65	0	0.0%	67	2	3.1%								
11区	沢尻	262	288	26	9.9%	320	32	11.1%	332	12	3.8%	326	-6	-1.8%	347	21	6.4%								
12区	谷津	111	121	10	9.0%	128	7	5.8%	143	15	11.7%	149	6	4.2%	171	22	14.8%								
13区	宮前	91	96	5	5.5%	91	-5	-5.2%	108	17	18.7%	97	-11	-10.2%	100	3	3.1%								
14区東	かなん沢	139	139	0	0.0%	161	22	15.8%	177	16	9.9%	175	-2	-1.1%	159	-16	-9.1%								
14区西	中里	194	213	19	9.8%	215	2	0.9%	213	-2	-0.9%	206	-7	-3.3%	206	0	0.0%								
15区	城山	242	262	20	8.3%	273	11	4.2%	306	33	12.1%	336	30	9.8%	338	2	0.6%								
17区	仲町屋	305	296	-9	-3.0%	271	-25	-8.4%	270	-1	-0.4%	268	-2	-0.7%	274	6	2.2%								
	松田地区	3,281	3,493	212	6.5%	3,648	155	4.4%	3,749	101	2.8%	3,792	43	1.1%	3,887	95	2.5%								
18区	萱沼	61	67	6	9.8%	73	6	9.0%	64	-9	-12.3%	56	-8	-12.5%	59	3	5.4%								
19区上下	弥勒寺	174	247	73	42.0%	271	24	9.7%	287	16	5.9%	294	7	2.4%	294	0	0.0%								
20区	中山	18	15	-3	-16.7%	14	-1	-6.7%	13	-1	-7.1%	13	0	0.0%	12	-1	-7.7%								
21区	土佐原	19	22	3	15.8%	25	3	13.6%	28	3	12.0%	28	0	0.0%	24	-4	-14.3%								
22区	宇津茂	66	89	23	34.8%	94	5	5.6%	95	1	1.1%	102	7	7.4%	106	4	3.9%								
23・24区	大寺宮地	66	81	15	22.7%	88	7	8.6%	92	4	4.5%	86	-6	-6.5%	94	8	9.3%								
25・26区	虫沢田代	96	127	31	32.3%	138	11	8.7%	140	2	1.4%	139	-1	-0.7%	136	-3	-2.2%								
27区	湯の沢	120	133	13	10.8%	146	13	9.8%	150	4	2.7%	145	-5	-3.3%	152	7	4.8%								
	寄地区	620	781	161	26.0%	849	68	8.7%	869	20	2.4%	863	-6	-0.7%	877	14	1.6%								
合計	町全体	3,901	4,274	373	9.6%	4,497	223	5.2%	4,618	121	2.7%	4,655	37	0.8%	4,764	109	2.3%								

資料：住民基本台帳

【行政区別人口増減率図】



【行政区別人口増減率図（平成2年～22年までの5年間ごとの増減）】



② 依然として進む街なかの空洞化

行政区ごとの人口の推移をみると、茶屋・河内・中丸や中央、仲町、谷戸、中沢等の小田急線新松田駅やJR松田駅を中心とする街なかの行政区は平成2年以降で減少が続いているほか、新松田地区は平成12年に増加に転じたものの、その後は減少が続いています。

また、行政区の人口減少に伴い、少子高齢化が進行による高齢の街、身近な商業施設の撤退等による生活不便の街等、高齢者等をはじめとして町民のにとって住みにくい町となってきています。

③ 地域の支え合いやバランスの変化

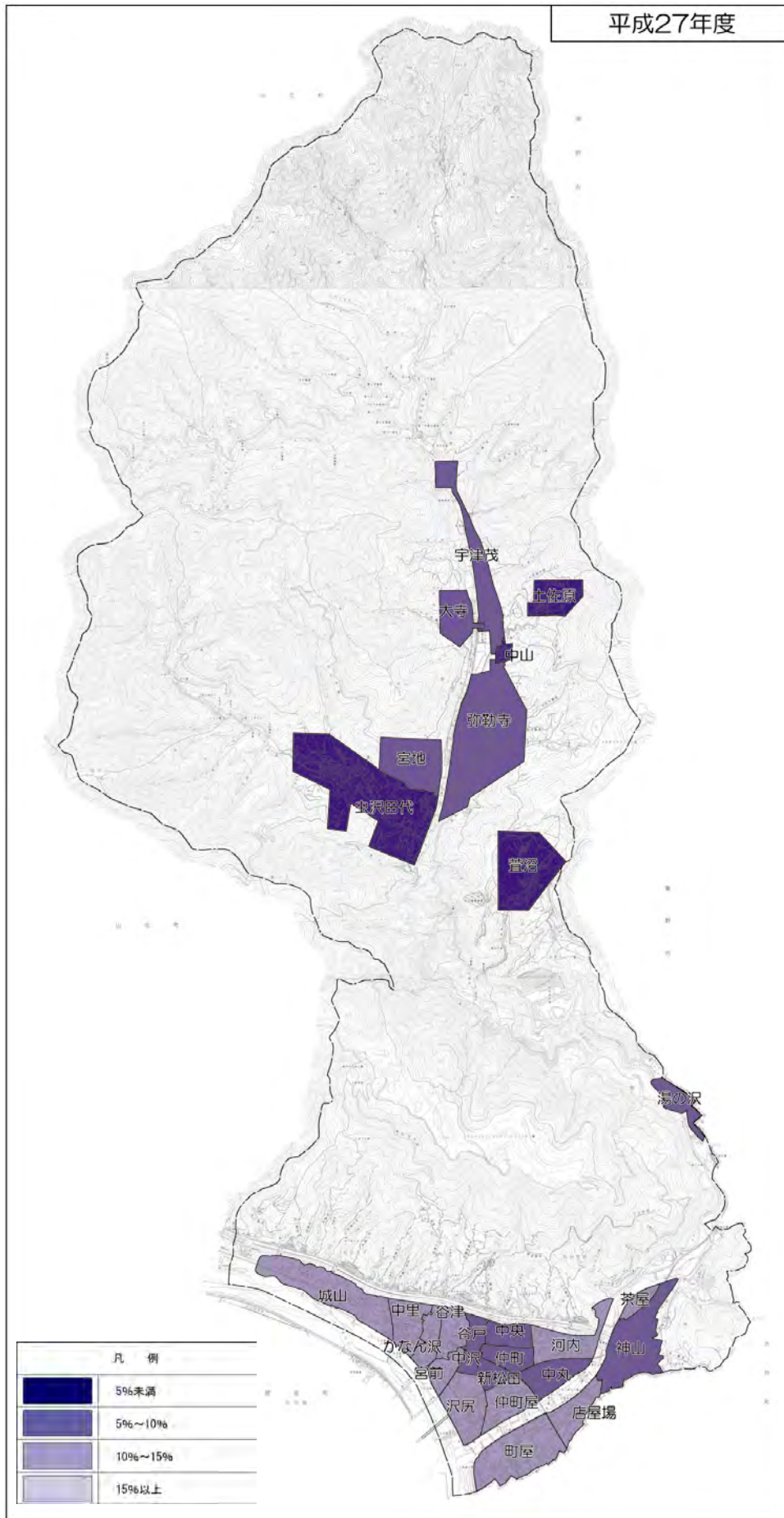
人口減少や少子高齢化の更なる進行に伴う人口構造の変化が国や神奈川県よりも速く進行しています。

扶助力（65歳以上人口を支える生産年齢人口の割合）が平成7年以降では、生産年齢人口の減少や老年人口の増加に伴い、年々減少傾向にあり、平成7年には松田惣領4.6、松田庶子4.7、神山4.9、寄4.1であったものが、平成27年には松田惣領2.0、松田庶子1.9、神山1.6、寄1.7となっているほか、平成52年には松田惣領1.2、松田庶子1.1、神山0.9、寄1.0になると予測されています。

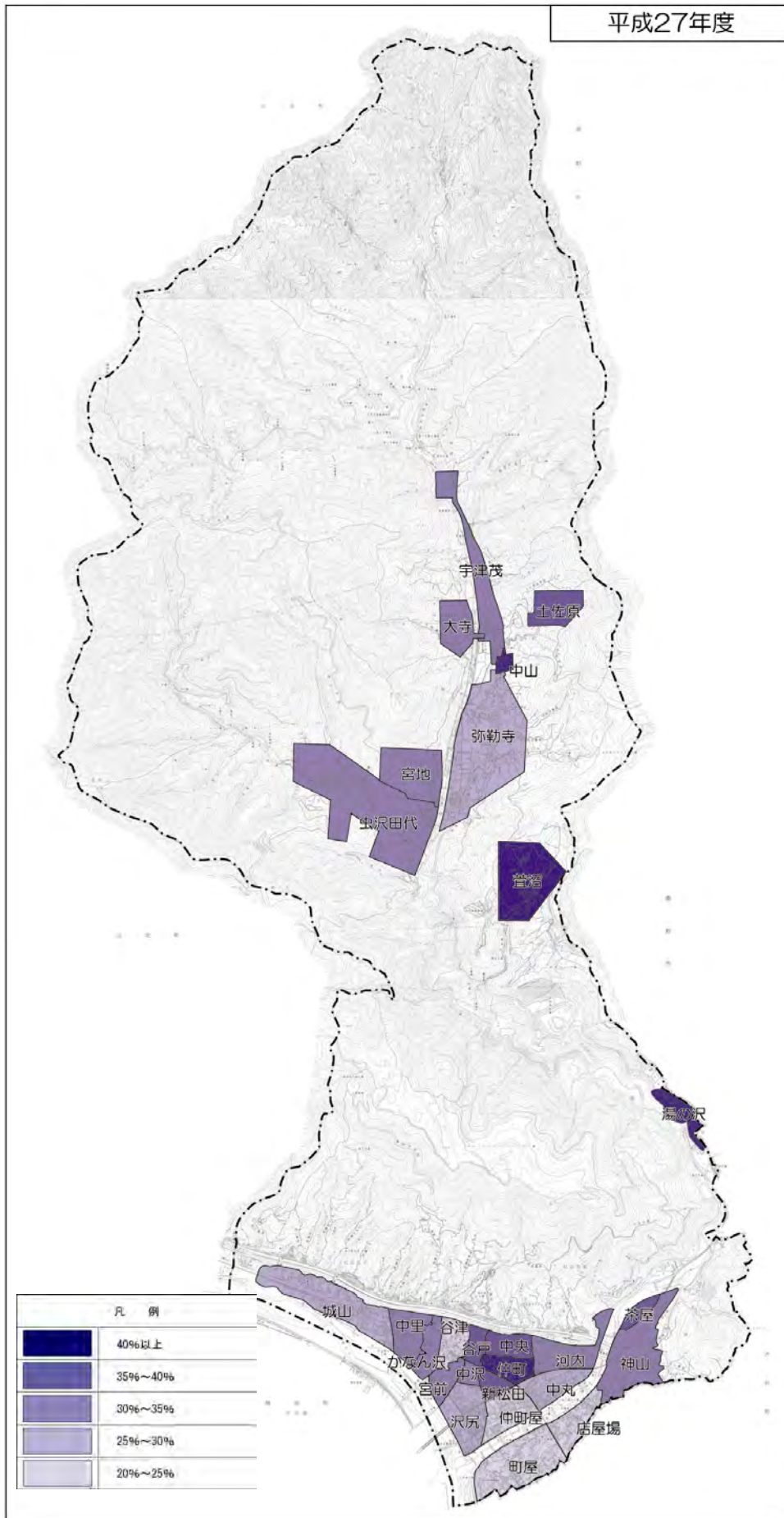
【扶助力】

	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27	H32	H37	H42	H47	H52
町全体	6.6	5.6	4.5	3.7	3.0	2.3	1.9	1.6	1.5	1.4	1.2	1.1
松田惣領	—	—	4.6	3.7	2.8	2.4	2.0	1.8	1.7	1.6	1.4	1.2
松田庶子	—	—	4.7	3.7	3.2	2.3	1.9	1.7	1.6	1.5	1.3	1.1
神山	—	—	4.9	4.6	3.1	2.4	1.6	1.3	1.3	1.2	1.1	0.9
寄	—	—	4.1	3.7	3.2	2.2	1.7	1.4	1.1	1.0	1.0	1.0
神奈川県	9.5	8.3	6.7	5.2	4.1	3.3	2.6	2.4	2.3	2.1	1.8	1.6
全国	6.6	5.8	4.8	3.9	3.3	2.8	2.3	2.0	1.9	1.8	1.7	1.5

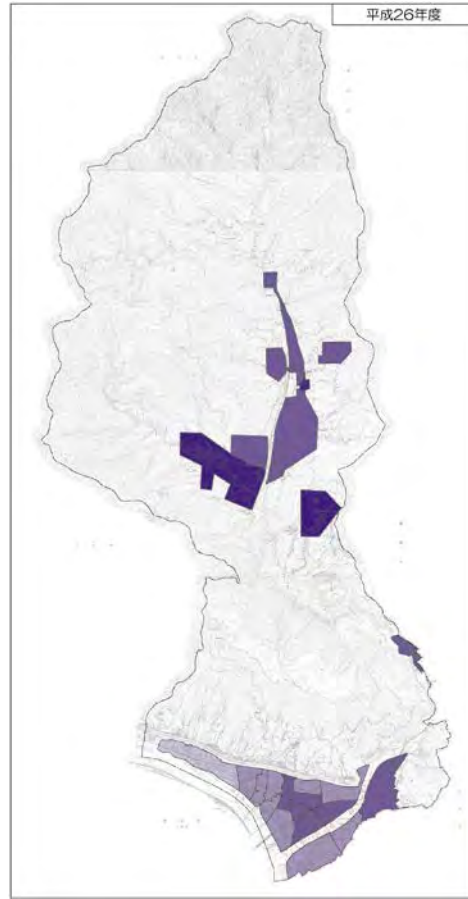
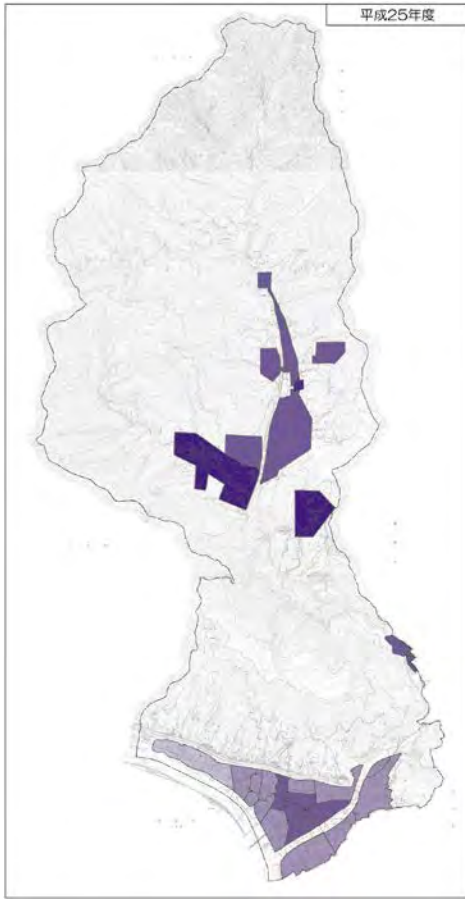
【行政区別少子高齢化率（平成 27 年 少子化率）】



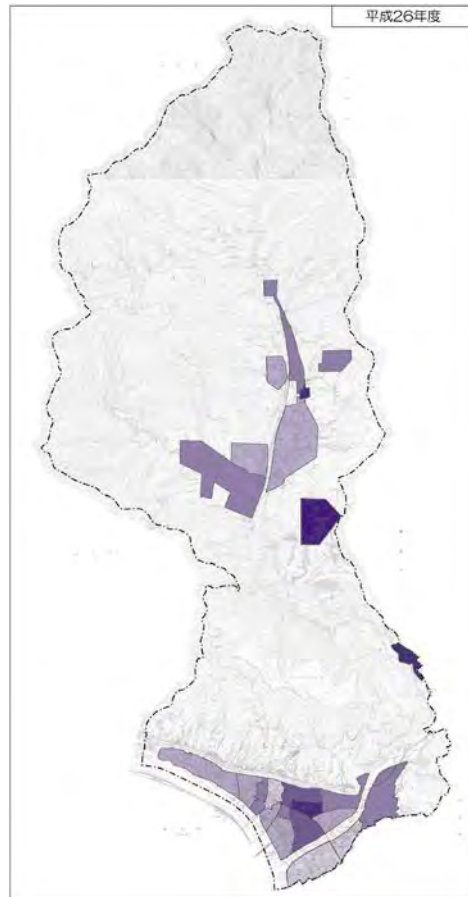
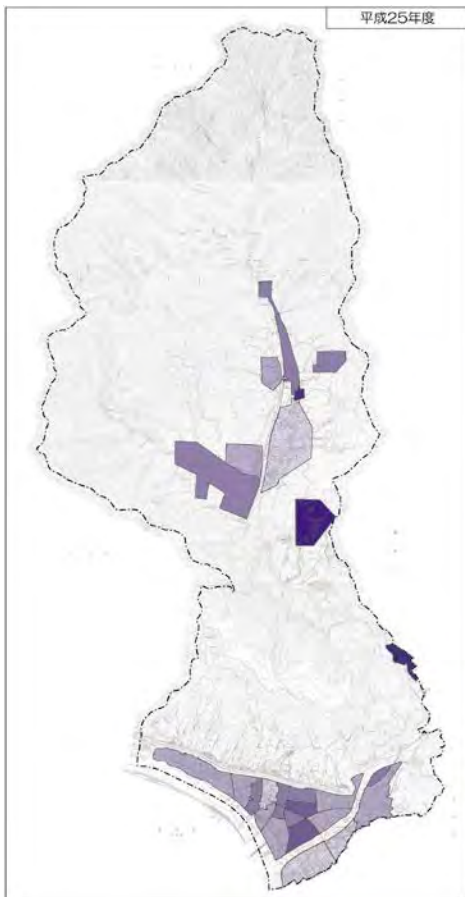
【行政区別少子高齢化率（平成 27 年 高齢化率）】



【行政区別少子化率】



【行政区別高齢化率】



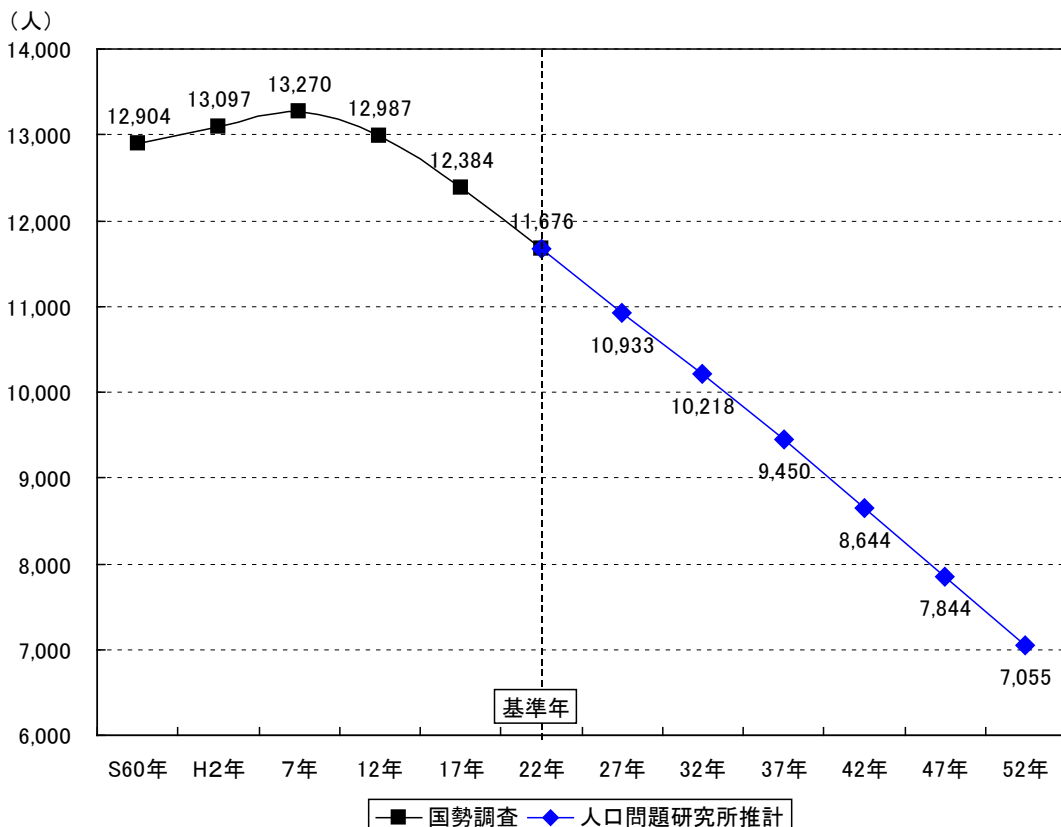
3. 将来人口の推計と分析

1) 国立社会保障・人口問題研究所の将来人口の推計

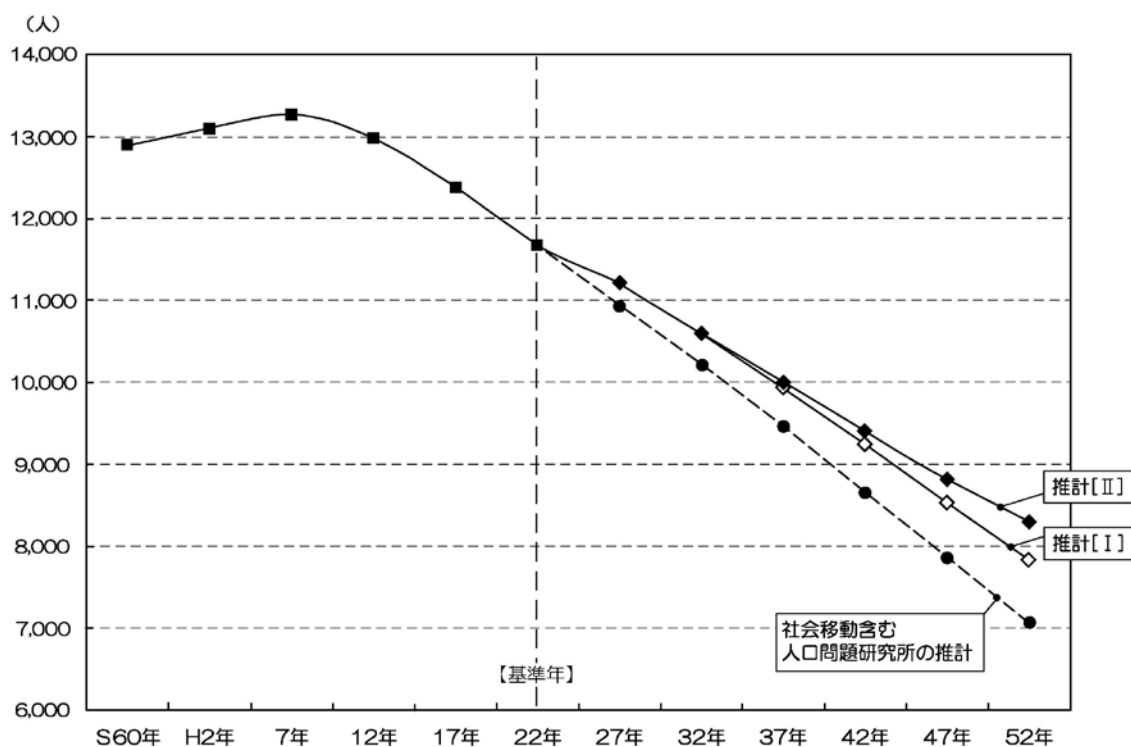
平成 22 年の国勢調査を基本とした国立社会保障・人口問題研究所による「日本の地域別将来推計人口（平成 25 年 3 月推計）」においては、平成 52 年の総人口は 7,055 人になると予測されています。

【国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計の概要】

基準人口	平成 22 年 国勢調査人口
将来の生残率	国立社会保障・人口問題研究所による「日本の将来推計人口（平成 24 年 1 月推計）」から得られる全国の男女・年齢別生残率を利用して、将来の生残率を設定する。
将来の純移動率	平成 17 年から 22 年に観察された市区町村別・男女年齢別純移動率を平成 27 年から 32 年にかけて定率で縮小させ、平成 27 年から 32 年以降の期間については、縮小させた値を一定とする仮定とする。
将来の子ども女性比	国立社会保障・人口問題研究所による「日本の将来推計人口（平成 24 年 1 月推計）」において算出された全国の平成 52 年までの男女・5 歳階層別人口を利用し、平成 22 年の全国の子ども女性比と各市区町村の子ども女性比との較差をとり、その値を平成 27 年以降平成 52 年まで一定として市区町村ごとの仮定値とする。
将来の 0～4 歳性比	国立社会保障・人口問題研究所による「日本の将来推計人口（平成 24 年 1 月推計）」により算出された全国の平成 27 年以降平成 52 年までの 0～4 歳性比を各年次の仮定値とし、各自治体の 0～4 歳推移人口の一律に適用する。



2) 松田町独自の将来人口の推計



	S60年	H2年	7年	12年	17年	22年	27年	32年	37年	42年	47年	52年
国勢調査 (住民基本台帳)	12,904	13,097	13,270	12,987	12,384	11,676	11,208	—	—	—	—	—
人口問題研究所で公表している社会移動を含む推計							10,933	10,218	9,450	8,644	7,844	7,055
推計[I]							11,208	10,597	9,940	9,244	8,521	7,821
推計[II]							11,208	10,642	10,071	9,488	8,909	8,365

4. 人口の変化が地域の将来に与える影響と課題

1) 問題・課題の整理

(1) 人口減少・少子高齢化の抑制

- 急速に進行し続けている減少傾向を緩やか（抑制）にする手立て等にスピード感を持って対応していく必要があります。
- 松田町での子育て支援環境や高齢者等が暮らしやすい環境づくり、若年層（子育て世代）の転出を抑制し、定住化につなげていきながら、安定した人口構造（年齢階層別人口構成・人口ピラミッド）を形成していく必要があります。
- 地域の特性（交通利便、買い物環境等）と住民のニーズを踏まえた地域づくりが求められています。

(2) 産業力の活性化・強化

- 地形や土地利用上での制約があり、大規模な開発等による変革ができないなかで、松田町での基幹的な産業となる農林業や商業・サービス業、観光等を地域の再生と一体となって進めていく必要があります。
- 産業複合化による6次産業化や、おもてなし産業の発展的な展開に伴う新たな雇用の創出と産業の活力を高めていくことが求められています。

(3) 地域・暮らしの維持・育成

- 人口減少に伴い、松田地区では新松田駅周辺の行政（自治会）区等の街なかの地区、寄地区では散在する集落地でコミュニティをはじめとして地域での暮らしの維持が難しくなりつつあることから、地区内の空き家や農家住宅等を活用した定住化に向けた取り組み、地域を訪れ、イベント等を通じて地域との関わりが持てる取り組みをすすめていく必要があります。
- 農村集落地環境の保全・活用を進めていくなどの地域環境の向上を図り、特色と魅力のある地域づくりを進めていくなど、地域の実情や状況等に対応した取り組みを進めていく必要があります。
- 人口減少や少子高齢化により人口構造が変化し、限界集落化等も懸念されているなかで、健全な相互扶助のバランスのとれた地域づくりが求められています。

5. 松田町の人口の将来展望

1) 目指すべき将来の方向

本町は平成 23 年 3 月に策定した「松田町第 5 次総合計画 基本構想及びまちづくりアクションプログラム」において、本町への定住化を促進するまちづくり戦略プロジェクトへの取り組みをこれまで進めてきました。

さらに、平成 27 年 3 月に策定した「松田町第 5 次総合計画 新まちづくりアクションプログラム」においてもこれまでの取り組みを継続しながら、新たに取り組むべき施策や事業等を追加し、定住化に向けたまちづくり戦略プロジェクトとしての取り組みを優先的に進めていくこととしています。

〈松田町第 5 次総合計画 将来像〉

「緑と清流のまち、ゆとりを楽しむきらめく松田」

～自然と街の融合したおもてなしのまち～

〈松田スタイルの確立：「住みやすさ・生活しやすさ」の追求〉

- 松田山からの富士山、大島は絶景で、箱根の外輪山がとてもきれいに見えるまち
- 緑と水を活かした景観がとてもきれいなまち
- 地域の資源との交流・ふれあいが活発な賑わいのあるまち
- 地域の資源を活かし、生きがいを持って働けるまち
- 緑ゆたかな住環境が整備されたまち
- だれもが生涯現役で暮らすことができる医療・福祉の環境が整ったまち
- 豊かな自然と豊富な歴史・文化資源を活かしたまち
- 子どもを持ちたいという親の願いを十分にかねえられるよう、子育て環境が充実したまち
- 農業と連携した魅力ある観光のまち

「おもてなしのまち」とは…

松田町の創生に向けた目標や将来像を実現していく上で、さまざまな施策・事業を展開していくこととなります。

その際に交流人口の増加・拡大から松田町への定住化の促進に向けて行う取り組みには、これまでの松田町の良さや強みを認識、情報を共有しながら、積極的に活用していくことがとても重要になってきています。

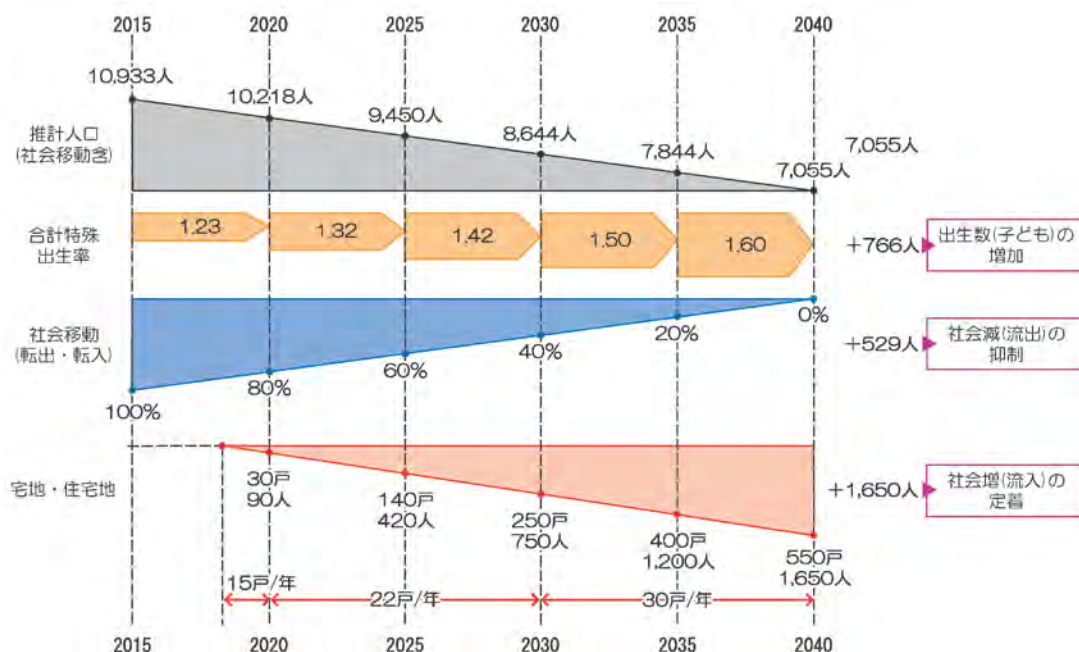
さらに、こうした取り組みを進めていく上では、「心」が伴っていることが肝要であることから、“オール松田「おもてなし」宣言”を理念に据えたまちづくりを町民と一体となって推進していきます。

2) 人口将来展望

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると平成 52 年(2040)における本町の総人口は 7,055 人まで減少することが予測されています。

本町の独自の推計では、総合計画での定住化に向けた住宅・住宅地の整備や子育て支援等の充実・強化を進め、出生率の上昇や社会動態の抑制につながる施策等を行いながら、松田町の強みを活かし、まちづくり戦略プロジェクトを中心とした事業を戦略的・積極的に展開して平成 52 年(2040)における目標人口を 10,000 人と設定します。

【目標人口：10,000 人の政策展開のイメージ】



■松田町の人口減少に歯止めをかけていくための3つのポイント

- ① 合計特殊出生率を上げる方策
- ② 社会移動（転出・転入）を“0”にする方策
- ③ 新たな宅地・住宅の供給

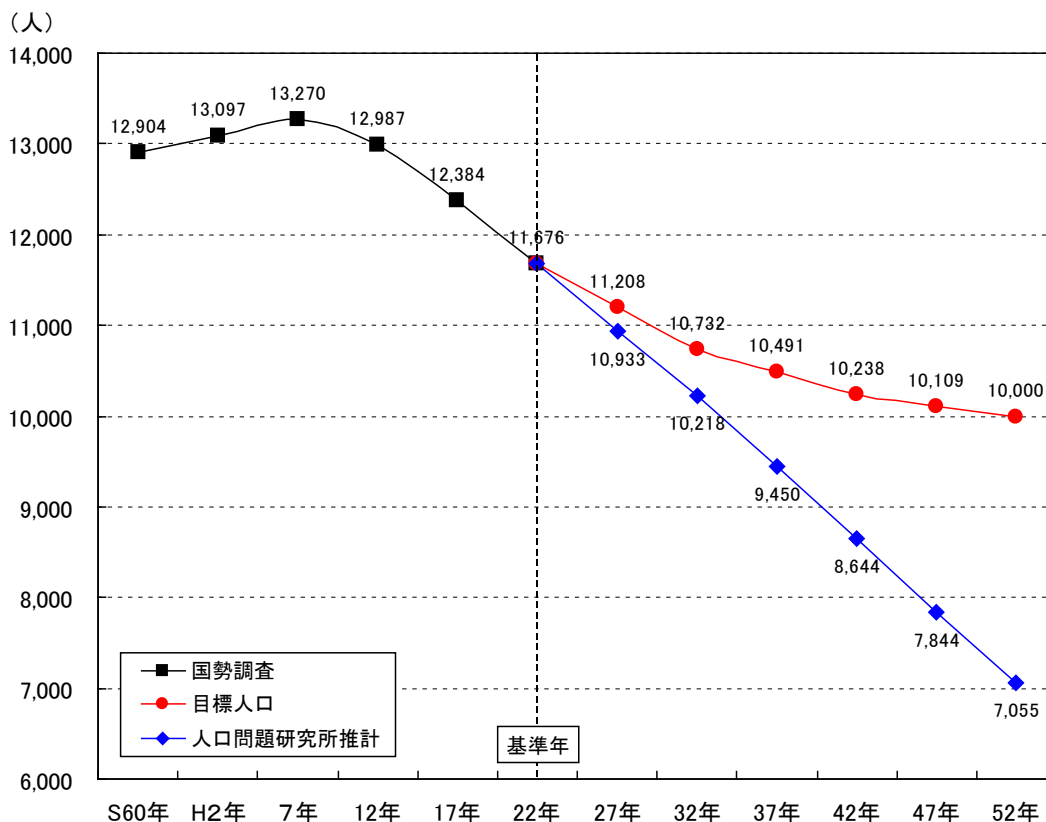
①～③に対する松田町独自の戦略的政策展開を「Ⅱ 総合戦略」で示します。

- i. 推計人口：国立社会保障・人口問題研究所で平成 22 年の国勢調査人口を基に、社会移動（転出・転入）を含めた松田町の将来人口の推計結果
- ii. 合計特殊出生率：15～49 歳までの女性の年齢別出生率を合計したのもで、1 人の女性が一生の間に生む子どもの数
平成 72 年(2060)に合計特殊出生率 2.08 と想定し、目標に向けた段階的に目標とする出生率
- iii. 社会移動：将来推計(推計人口に含まれている社会移動(転出・転入))を平成 52 年(2040)に“0”となるように段階的に目標とする社会移動数
- iv. 宅地・住宅地：政策的な付加人口とし、平成 52 年(2040)に松田町の総人口 10,000 人に向けて、必要となる住宅戸数と定住人口

将来目標人口においては、政策展開のイメージを踏まえ、合計特殊出生率を高めながら出世数を増やしていくほか、転入・転出に伴う社会移動を徐々に収束させ、平成52年（2040）には社会移動を0として、社会移動を含めた推計人口の減少傾向を抑制させていきます。

さらに、政策的な人口増加方策として、住宅・住宅地の供給に伴う人口増加を見込むとともに、本町への定住化を促進し、将来目標人口の達成を目指していくものとします。

【将来目標人口】



(上段:実数・下段:構成比)

	昭和22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年	平成52年
0～14歳	1,255 10.7%	1,119 10.0%	1,027 9.6%	1,045 10.0%	1,082 10.6%	1,083 10.7%	1,100 11.0%
15～64歳	7,285 62.4%	6,634 59.2%	6,091 56.8%	5,856 55.8%	5,610 54.8%	5,511 54.5%	5,400 54.0%
65歳以上	3,118 26.7%	3,455 30.8%	3,615 33.7%	3,590 34.2%	3,546 34.6%	3,515 34.8%	3,500 35.0%
不詳	18 0.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
総数	11,676 100.0%	11,208 100.0%	10,733 100.0%	10,491 100.0%	10,238 100.0%	10,109 100.0%	10,000 100.0%

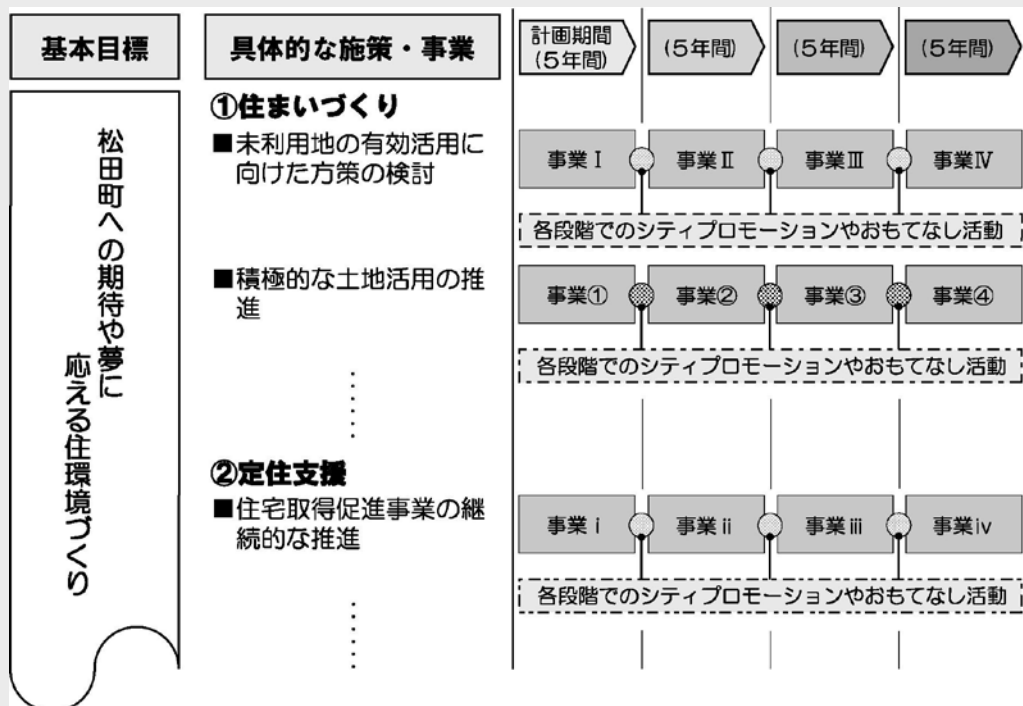
II. 松田町総合戦略

1. 総合戦略の取り組みの視点

総合戦略に取り組んでいく上で、次の掲げる5つの視点を踏まえ、松田町の強みを活かしながら進めていきます。

視点1 松田町人口ビジョン・総合戦略での取り組みでは、中長期的な視点に立ちながら、施策・事業の展開イメージを共有し、スピード感を持ちながら、継続的な取り組みにつなげていきます。

視点2 中長期的な施策・事業の取り組みと合わせ、まちづくりを基本としたシティプロモーション活動やオール松田「おもてなし」宣言に基づいた様々なおもてなし活動を積極的に展開していきます。



視点3 産・官・学・金・労・言の連携した取り組みによって地域の持続的な発展につながり、さらに、町を訪れた人が松田町に「住みたい」「住み続けたい」という想いにつながる取り組みを進めます。

視点4 単独市町としての取り組みだけでなく、県西地域の2市8町（松田町、小田原市、南足柄市、中井町、大井町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町）や神奈川県等を含めた広域的な連携による取り組みを進めます。

視点5 松田地区や寄地区、個別行政（自治会）区等の特性や地区の実情に応じて、柔軟かつ戦略的な取り組みを進めます。

2. 総合戦略の施策の方向

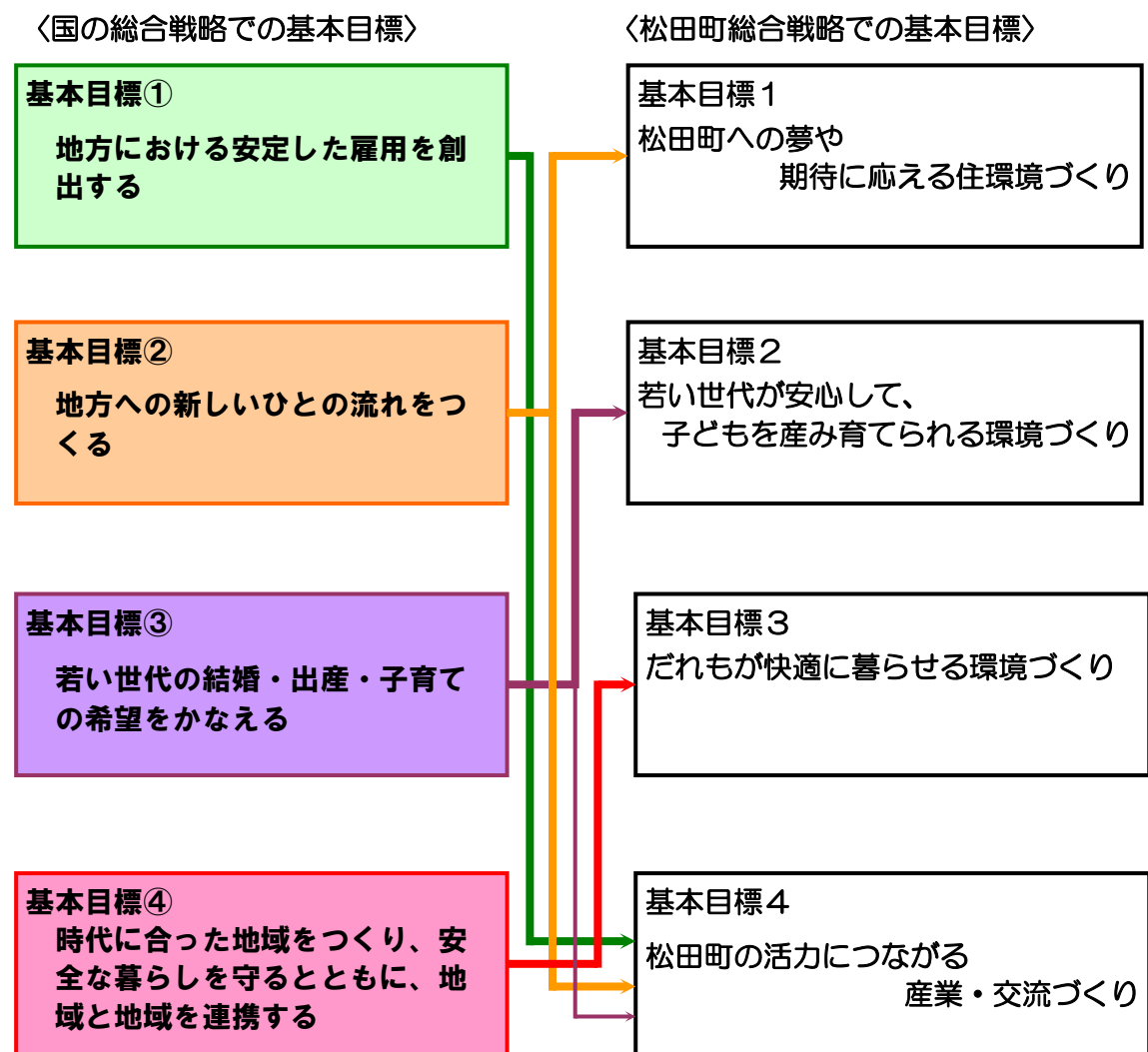
1) 施策の基本目標

国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、人口減少の克服と地方創生を確実に実現するため、「政策5原則」（自立性、将来性、地域性、直接性、結果重視）の趣旨を踏まえ、効果的な施策を図ることとしています。

また、4つの基本目標を設定し、地方における様々な政策による効果を集約し、「人口減少への歯止め」「東京一極集中の是正」を着実に進めていくこととしています。

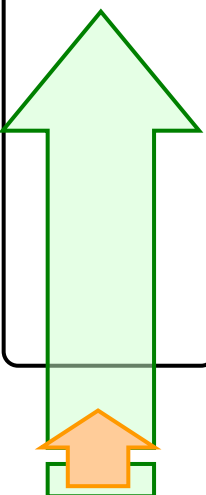
そこで、松田町総合戦略では、総合計画で取り組んできている定住化への戦略的な取り組みに加え、本町の地域資源を最大限に活用し、更なる定住化の促進や地域経済の活性化を目指していくため、国の示す基本目標を踏まえながら、次の4つの基本目標を定めます。


【松田町の基本目標】



また、本町における4つの基本目標の取り組みを通して、松田町第5次総合計画 新まちづくりアクションプログラムでの将来像でもある『緑と清流のまち、ゆとりを楽しむ さらめく松田 ～自然と街の融合したおもてなしのまち～』の実現とあわせて、本町での住みやすさ・生活しやすさを追求した「松田スタイルの確立」を進めます。

【基本目標と松田スタイルで標榜される町の姿】

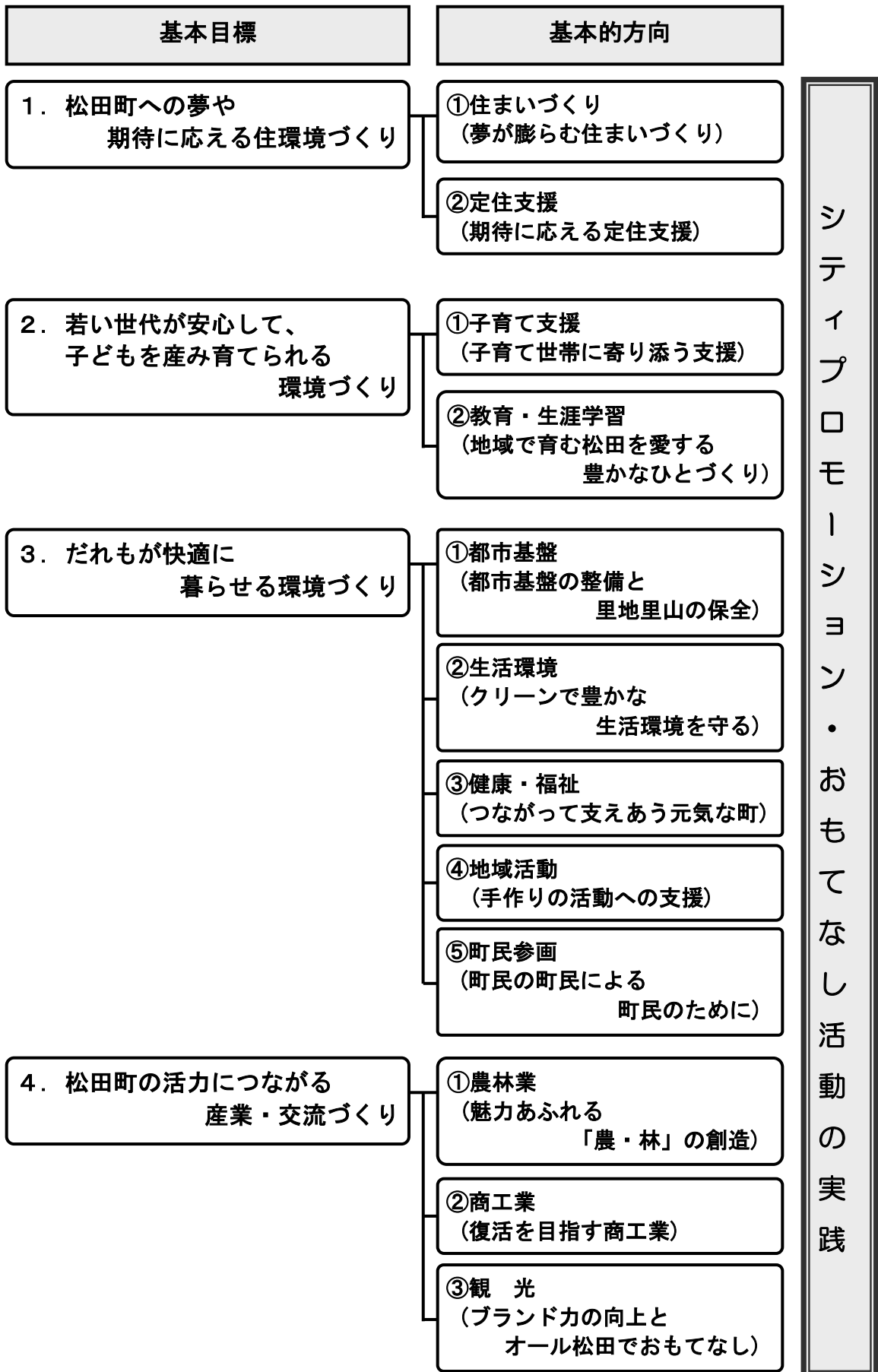
基本目標	松田スタイルの確立に向けて 〈暮らしのイメージ〉	平成 31年度
基本目標 1	○緑豊かな住環境が整備された「住んでみたい」と思われるまち	目標の達成 ・ 将来像の実現 
基本目標 2	○子どもを持ちたいという親の願いを十分になえられるように、子育て家庭に対する経済的支援が充実しているまち ○豊かな自然と豊富な歴史、文化資源を活かし、松田を愛し、誇りに思う教育を進めるまち	
基本目標 3	○松田山からの富士山、大島は絶景で、箱根の外輪山がとてもきれいに見えるまち ○自然と街が融合した美しくてクリーンなまち ○地域の資源や人財が交流し、人情味あふれるふれあいが活発な賑わいのあるまち ○だれもが「やりがい」を持って生涯現役で暮らすことができる医療・福祉の環境が整ったまち	
基本目標 4	○地域資源を活かし、「生きがい」を持って働けるまち ○農業と連携した魅力ある観光のまち ○地域資源の活用や産業間等の連携による新たな雇用の場と機会が創出・創造できるまち	



『松田創生プロモーション』

<ul style="list-style-type: none"> ○地域・暮らしのプロモーション ：資源、良いところ、誇り ○創成活動のプロモーション ：活動自体の発信、プロセスの紹介 	}	<ul style="list-style-type: none"> ○ファン、応援団、支援ネットワークの育成・強化 ○松田創生コミュニケーション戦略として
--	---	--

【総合戦略の施策体系】



2. 取り組みの方策

基本目標Ⅰ 松田町への夢や期待に応える住環境づくり

【目標】

交通の至便性や、都心に近い立地、豊富な自然環境等の強みと併せて、定住化に向けた施策を積極的にPRする中で、町有地を含む未利用地の積極的、計画的な土地利用を図ります。特に、定住化に向けて呼び込むターゲットを明確にし、既存の空家等の活用も図りつつ、整備手法も民間の力を取り入れながら実施していくものとします。

●数値目標：人口社会減の抑制

基準値 ▲227人 ⇒ 目標値(平成31年度) ▲182人

【具体的な施策と重要実績評価指標（KPI）】

①住まいづくり 【夢が膨らむ住まいづくり】

- ・未利用地となっている町有地の有効活用に向けた方策の検討をPFI等の手法を念頭に進め、魅力ある住まいづくりに向けた積極的な土地活用を図ります。
 - ☛この土地活用は、他の項目にある地域産業の振興や雇用確保等の誘引をする位置づけを想定しています。
- ・民間の住宅建設を促進しながら、松田町まちづくり条例の基本理念などに基づき、特色ある良好な住宅地開発を誘導します。
- ・町民や時代のニーズに対応して「住んでみたい」と思われる町営住宅の建設を進めます。
- ・地元不動産等と連携しながら空家バンク情報を充実していくとともに、空家の改修やリノベーションを多様な主体と連携して進め、付加価値を創造した中で積極的な活用を図ります。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
※空家の利活用物件数		
※住宅新築着工件数		

②定住支援 【期待に応える定住支援】

- ・松田町への移住・定住化を促進するため、継続して住宅取得促進事業に取り組んでいくとともに、新制度の研究・実行・周知を進めます。
- ・町内の民間賃貸住宅の居住者への家賃補助事業や、空家の利用者への改修等の補助事業の活用を図り、定住支援を進めます。
- ・地元不動産や金融機関等と連携を図りながら、住宅取得や維持に向けた支援を進めます。
- ・将来的な本町への移住や定住に向けて、民間企業等と連携しながら「お試し移住」等の取り組みを進めます。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
※定住・移住相談件数		
※お試し移住の件数		
※各種補助の申請件数		

基本目標Ⅱ 若い世代が安心して、 子どもを産み育てられる環境づくり

【目 標】

小児医療費助成、不妊治療費助成、水道料金助成など、町独自の子育て世帯への経済的な負担軽減や、保育所・学童保育・子育て支援センターなどの施設拡充を継続していくとともに、「子育てしやすい町」というイメージの定着が図れるような広報戦略を展開します。

また、地域やさまざまな主体と連携し、ICT・英語などの特色ある教育環境を整え、対外的に発信するとともに、松田町への愛着と誇りを醸成するような教育施策を推進します。

●数値目標：合計特殊出生率

基準値(平成25年度) 1.09 ⇒ 目標値(平成31年度) 1.23

【具体的な施策と重要実績評価指標（KPI）】

①子育て支援 〔子育て世帯に寄り添う支援〕

- ・次代を担う子どもたちを地域で育む子育て支援センターやファミリー・サポートセンター事業の充実を図るとともに、ニーズの高まる保育所や学童保育（放課後児童健全育成事業）で待機児童を出さないように施設拡充で量を確保し、民間事業者等と連携するなどして質の向上に取り組んでいきます。
- ・子どもを持つ親の経済的な負担を軽減するため、小児医療費の助成（中学校修了まで）や、本町の独自事業として展開している子育て世帯支援事業（水道料金の補助）や給食費の助成を継続します。
- ・安心して子どもを産み育てられる環境づくりを進めるために、不妊治療費の助成の充実を図るとともに、妊婦健康診査補助や保健師等による訪問指導など総合的な支援を継続します。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
※子育て支援センターの利用者数		
※保育所・学童保育の待機児童数		

②教育・生涯学習 【地域で育む松田を愛する豊かなひとづくり】

- ・家庭、学校、地域が一体となって次代を担う子どもの教育環境を整え、ふるさとを愛し、豊かな人間性とたくましく生きる力を育みます。
- ・子どもたちが安心して学べる環境づくりに向けた学校施設の整備等を、町民の意向や将来像を踏まえて進めます。
- ・学校 I C T 環境の整備や英語教育の充実等、特色ある教育環境の強化・充実を図り、児童・生徒の学力向上に努めます。
- ・子どもたちの個々のニーズに対応した学習支援や介助員の配置を、本町の独自事業として継続します。
- ・松田の有する自然や文化を、貴重な教材・資源として活かした総合学習授業など（小学校・中学校）に町内の有識者等の出前事業を実施する。
- ・町民マイスター（名人）認定制度を制定し、人材や資源の掘り起こしと活用を図り、町民の誇りを醸成していきます。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
※町民マイスター認定者数		
※出前事業の実施数		
※ I C T 環境を活用した授業数		
※英検取得者数		

基本目標Ⅲ だれもが快適に暮らせる環境づくり

【目 標】

神奈川県西地域の北の玄関口としての役割や将来のあり方を念頭に、町民のニーズを反映し、従来の駅周辺イメージを一新させる面的な整備を推進するとともに、古くから私たちに多くの恵みをもたらした里地里山を次世代に引き継ぎます。

また、おもてなしの理念を浸透したなかで、ゴミのない美しい町を目指し、豊かな自然・生活環境を保持するため、地域のつながりを再確認し深めていきます。

さらに、地域の福祉や文化活動の充実が図られるようにボランティア等の人材育成を図り、やりがい生きがいに高めていきます。

●数値目標：アンケート調査で「松田町は住みよい」と回答する町民の割合

基準値(平成25年度) 68.8% ⇒ 目標値(平成31年度) 75.0%

【具体的な施策と重要実績評価指標（KPI）】

①都市基盤 【都市基盤の整備と里地里山の保全】

- ・新松田駅南口駅前広場等の効率的・効果的な整備を進め、早期完成を目指します。
- ・県西地域の玄関口となる新松田駅北口周辺の整備の在り方についての検討とあわせて、整備に向けた調査・計画を進めます。
- ・駅周辺整備の移行期間における暫定措置として、駅周辺の快適、安全、利便性付与対策を進めます（具体例：待合、休憩、トイレ及び喫茶、食事空間の確保）。
- ・近年その機能が失われつつある、人と自然が形成してきた寄等の里地里山を保全し、農林業の生産の場や生活の場として再生・活用していきます。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
※新松田駅・松田駅利用者数		
※神奈川県里地里山の条例に基づく協定認定団体数		

②生活環境 【クリーンで豊かな生活環境を守る】

- ・町民が安心して通行・利用できる道路歩行空間の確保を進めます。
- ・寄地区における生活排水処理施設の整備を計画的に進めます。
- ・地域における自主的な清掃活動や花とみどりいっぱい事業が広がるよう支援するとともに、おもてなしの精神でボランティア等によるクリーンキャンペーンを推進します。
- ・ホテルが生息できるような自慢できる豊かな環境づくりを進めます。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
※清掃活動参加者数 実施回数		
※花とみどりいっぱい事業 箇所数		
※水質調査		

③健康・福祉 【つながって支えあう元気な町】

- ・健康増進計画に基づく、町民の健康づくり事業を広く展開し、町の各種健康診査の受信者比率を向上させ未病を治す取り組みを推進します。
- ・ICT機器や既存の施設・事業・資源を活用し、未病を治す施策等を積極的に推進します。
- ・足柄上病院等（要調整）の医療機関をはじめ、関連団体との連携を図りながら、未病への取り組みを進めるとともに、町民の健康寿命の高いまちを目指します。
- ・地域包括ケアシステムの構築を進め、地域が主体となった「たすけあい」「ささえあい」の体制づくりを進めます。
- ・地域包括支援センターの機能強化とともに、介護等に伴う高齢者向けの相談や地域支援事業の充実を図ります。
- ・地域での高齢者や障害児者の災害時非難等の支援体制づくりを進めます。
- ・地域福祉に資する事業の開発・導入、事業所誘致と連携を進めます。
- ・既存のハイキングコース等を活用して、健康づくりにつながるクアオルトづくり（気候性地形療法による滞在型の温泉健康保養地）を進めます。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
※健康づくりイベントへの参加者数		
※相談件数		
※地域での助け合い・支え合いの体制組織数		
※特定健康診査受診率	25.5%	35.0%

④地域活動 【手作りの活動への支援】

- ・おもてなしの観点から各種事業のボランティア力を高めるとともに、指導者を発掘するなど、様々なサークル団体等の育成・支援を進めます。
- ・松田町の地域文化を保存・継承していくために、文化活動団体の育成を進めます。
- ・身近な地域で活動団体を育成していくとともに、活動への支援を継続して進めます。
- ・地域での活動の核となる地域協議会の立ち上げと主体的な運営を支援します。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
※地域協議会の組織数		
※松田創生プロモーション計画の策定		
※ボランティア団体の数		
※文化活動団体等の組織数		

⑥町民参加 【町民の町民による町民のために】

- ・町民の責務や町づくりへの参画を規定する松田町自治基本条例（仮称）を定めたなかで、町民の身近な意見や提案等を把握し、行政運営に反映していくため、地域懇話会等を定期的で開催します。また、ワークショップ等を通じて町民参加を促進しながら、町民と一体となった協働のまちづくりを進めます。
- ・広報紙、公式ホームページ等の媒体や、気軽にまちづくりについて語れる場の提供等を通じて、町民の様々な意見や声を聞く場の充実を図ります。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
※地域懇話会への参加者数		
※ホームページへのアクセス数		

基本目標Ⅳ 松田町の活力につながる産業・交流づくり

【目 標】

農業については、鳥獣被害対策を充実したなかで、荒廃農地や後継者問題を、販路の拡大や6次産業化等の新たな手法を取り入れ、魅力ある（収入を確保できる）産業としての復活を目指していきます。

商工業については、専門家等の知見を取り入れながら、様々な機関と連携及び支援体制を確立し活性化を推進します。

観光においては、おもてなしの精神で来町者に感動を与える体制を整備し、ブランド化した松田の魅力を、積極的かつ広範な広報活動を実施します。また、より多くの観光客を誘客するためには、外国人観光客の呼び込みも視野に、神奈川県や近隣市町との広域的な連携による取り組みを推進します。

●数値目標：観光入込客数（神奈川県実施調査による）

基準値(平成26年度) 556千人 ⇒ 目標値(平成31年度) 860千人

●数値目標：商工業販売・出荷額（商業・工業統計調査による）

基準値 188.9億円 ⇒ 目標値(平成31年度) 250.0億円

※基準値は、平成23年工業統計、平成24年商業統計調査の結果（合算）となります。

【具体的な施策と重要実績評価指標（KPI）】

①農林業 「魅力あふれる「農・林」の創造」

- ・農業を中心とする新たな6次産業化の創造を進めます。
- ・鳥獣被害対策を充実し、荒廃農地の利活用を図り、農業生産基盤の保全を進めます。
- ・町民をはじめ、来町者が農と触れ合える観光面と連携した環境づくりを進めます。
- ・農作物の販路を拡大するために、町内における販売所の設置やICTを活用した販売手法を導入します。
- ・未病を治す観点から、農作物の中で健康に効能を有する物の栽培を促進する。
- ・神奈川県が推奨する搬出間伐を進め、山林整備と木材生産量の増加を目指し、木質バイオマスの有効活用を図ります。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
※農・林業の新規就業者数		
※体験農場（園）の設置数		
※農業産出額		

②商工業 【復活を目指す商工業】

- ・松田町の特性を活かした特産品（ブランド）の開発を進め、地産地消はもとより地産外消に向けた販路の拡大を、ICT等も活用するなど積極的に進めます。
- ・さくら祭りや観光まつりなどのイベント時に、観光客が町内を回遊したくなるような商店街等の整備促進。
- ・新松田駅周辺等における基盤整備事業に伴う商店街の活性化に向けた検討を進めます。
- ・買い物不便地区の解消に向けた移動販売業者への経営を支援します。
- ・金融機関、商工会、近隣自治体等と連携して、中小企業や個人事業主等へ創業・事業継承等に係る支援を進めます。
- ・一定規模の未利用地等における企業誘致を推進します。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
※特産品数		
※新規出店舗数		
※起案件数		

③観光 【ブランドカの向上とオール松田でおもてなし】

- ・松田町であまり知られていない既存の観光資源を再発見しスポットを当てるとともに、新たな観光資源等を発掘し、各種資源が連携するよう積極的な活用を図ります。
- ・近隣自治体との連携による「あしがらブランド」としての情報発信や取り組みを推進し、未病をはじめとするキーワードにより県西地域の知名度向上と活性化を図ります。
- ・平成32年の東京オリンピックや、平成31年ラグビーワールドカップなどによる訪日外国人への対応を含めた国際交流を積極的に進めます。
- ・松田町のPRに向けた松田ブランドの認定を進めるとともに、みかんやお茶、ごぼう等の地場産品の積極的なPRと販売を進めます。
- ・鳥獣駆除で捕獲したシカやイノシシの肉をジビエ料理として活用する体制の整備を進めます。
- ・オール松田「おもてなし」宣言に基づく、おもてなし事業を町民や企業等と一体となって推進します。
- ・松田町のPR活動をホームページやソーシャルメディア等を活用しながら、積極的に情報発信を進めます。
- ・松田町に訪れる人々を、おもてなしするために、分かりやすい観光案内板や道標の設置、ベンチやトイレ、WiFi等の施設整備を進め、利用環境の充実を図ります。
- ・松田地域及び寄地域の特性や環境を活かした観光・交流事業・プログラムづくりを進めます。
- ・輸送力や発信力といった強みを持つ交通事業者と、各種のイベント等における連携を強化していきます。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
※ホームページのアクセス数		
※観光入込客数		
※松田ブランド認定数		
※広域連携事業数		

3. 総合戦略の推進に向けて

(1) 総合戦略の取り組み体制

施策や事業の内容に応じて、町民、産業界、金融機関、各種団体等と連携し、地域が一体的となった推進体制を整えます。特に観光等に関する施策や事業については、周辺市町と連携した取り組みを進めます。

財源については、地方創生交付金をはじめとする、国や県の財政的な支援制度を積極的に活用していきます。

(2) 基本目標の達成に向けたPDCAサイクルの導入

総合戦略は、町民や地域、団体、企業、行政等が町全体で共有し、協働して推進する計画であるため、計画策定（Plan）、推進（Do）、点検・評価（Check）、改善（Action）の各過程においても町全体が関わる体制を構築し、高い実行性を確保していきます。

(3) 長期的な視点に立った施策・事業の取り組み方策の検討

計画目標年次となる平成 52 年(2040)を見据え、4つの基本目標に係る具体的な施策や事業における平成 32 年以降における取り組みの方向性や具体的な進め方等の検討を進め、目標年次（平成 52 年）までの道筋を明らかにしていきます。